

学校の適正規模・適正配置に
関するアンケート調査報告書

令和5年8月

守谷市

目次

I. 小中学生保護者向けアンケート調査	1
1. お子さまについて.....	2
2. 学校の「規模」について.....	3
3. 学校の「配置」等について.....	15
II. 未就学児保護者向けアンケート調査	27
1. お子さまについて.....	28
2. 学校の「規模」について.....	29
3. 学校の「配置」等について.....	36
III. 一般市民向けアンケート調査	42
1. あなた自身について.....	43
2. 学校の「規模」について.....	44
3. 学校の「配置」について.....	46
4. その他学校に関することについて.....	50
IV. 教職員アンケート調査	54
1. あなた自身について.....	55
2. 学校の「規模」について.....	56
3. 学校の「配置」について.....	63

I. 小中学生保護者向けアンケート調査

●調査方法

- ・調査対象 : 3,500 件
- ・回収数 : 1,912 件 (紙アンケート: 827 件、WEB 回答: 1,085 件)
- ・調査方法 : 紙アンケートの調査票の配布および WEB フォーマットへの回答により回収
- ・調査時期 : 令和 5 年 6 ~ 7 月

●調査結果の見方

(1) 本文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。

- ・「SA」(Single Answer): 単一回答形式 (選択肢の中から 1 つを選択してもらう設問)
- ・「MA」(Multiple Answer): 複数回答形式 (選択肢の中から複数を選択してもらう設問)

(2) 集計結果の比率は、各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してある。その結果として「SA」(単一回答形式) では、この比率の合計が 100%にならないこともある。

(3) 「MA」(複数回答形式) では回答者が複数の選択肢を選択するため、百分比 (%) の合計は、一般的に 100%を上回る。

(4) 見やすさに配慮するため、本文中のグラフ・表中の選択肢標記の語句の簡略化を行っている。

1.お子さまについて

対象の子どもの基本属性は以下の通り。

図表 1 基本属性

		件数	構成比 (%)
学校区分	小学生	1,372	72.3
	中学生	525	27.7
居住地	板戸井	39	2.0
	松前台	136	7.1
	大山新田	1	0.1
	久保ヶ丘	81	4.3
	薬師台	129	6.8
	緑	0	0.0
	大木	5	0.3
	松並	32	1.7
	本町	216	11.3
	百合ヶ丘	175	9.2
	赤法花	1	0.1
	同地	5	0.3
	中央	77	4.0
	大柏	42	2.2
	野木崎	33	1.7
	立沢	45	2.4
	御所ヶ丘	85	4.5
	みずき野	52	2.7
	小山	6	0.3
	乙子	9	0.5
	美園	30	1.6
	高野	12	0.6
	鈴塚	2	0.1
	松ヶ丘	169	8.9
けやき台	102	5.4	
ひがし野	166	8.7	
松並青葉	248	13.0	
その他	6	0.3	
学年	小学2年生	501	26.4
	小学4年生	428	22.5
	小学6年生	446	23.5
	中学1年生	324	17
	中学3年生	202	10.6
学校名	大井沢小学校	113	5.9
	大野小学校	49	2.6
	高野小学校	58	3
	守谷小学校	269	14.1
	黒内小学校	407	21.3
	御所ヶ丘小学校	124	6.5
	郷州小学校	87	4.6
	松前台小学校	90	4.7
	松ヶ丘小学校	199	10.4
	守谷中学校	116	6.1
	愛宕中学校	137	7.2
	御所ヶ丘中学校	149	7.8
	けやき台中学校	110	5.8
進学先の意向	市立中学校に通う予定	980	72.4
	私立中学校に通う予定	60	4.4
	県立中学・中等校に通う予定	104	7.7
	未定	210	15.5

2.学校の「規模」について

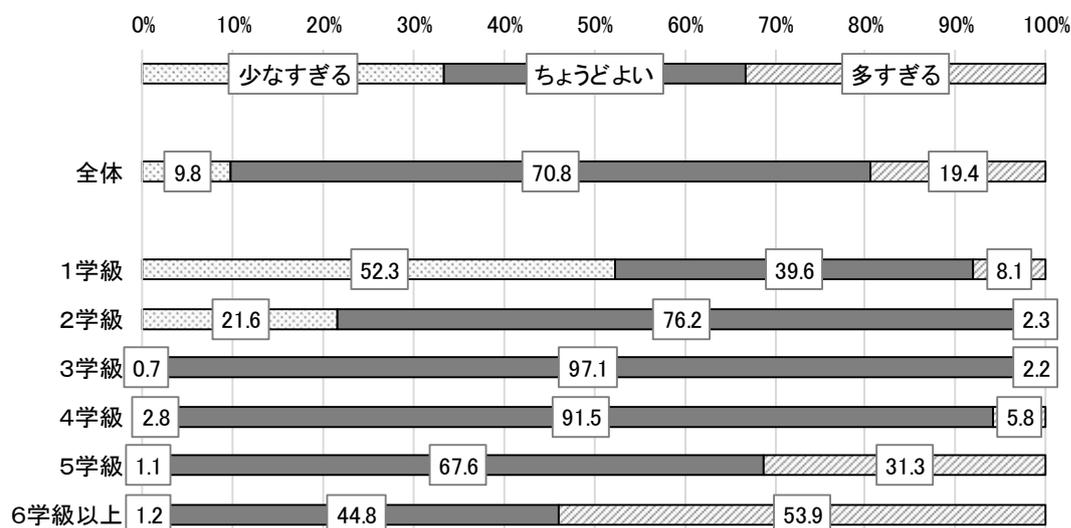
問. 対象のお子さまの学校の学年は、何学級ですか（S A）

問. 上記の対象のお子さまの学年の学級数について、どう感じていますか（S A）

⇒全体では「ちょうどよい」が約7割（70.8%）となっている。

子どもの学級数別にみると、1学級では「少なすぎる」が52.3%と半数を超えている。3学級および4学級では「ちょうどよい」が9割を超えている一方で、5学級以上では「多すぎる」の割合が増え、6学級以上では53.9%と半数以上が「多すぎる」と回答している。また、「黒内小学校」では「多すぎる」が約7割となっている。

図表 2 子どもの学年の学級数について（クロス集計）



(単位: %)

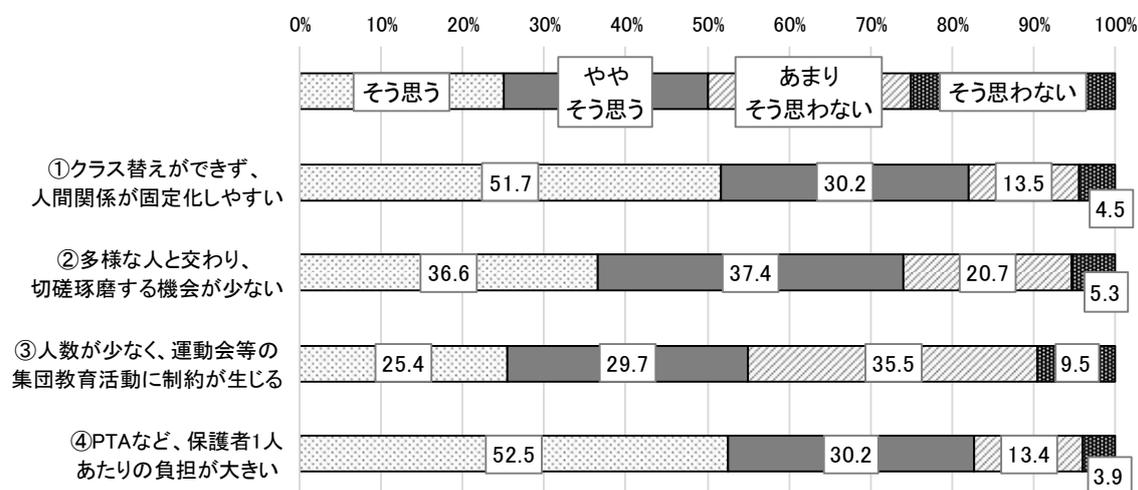
		件数	少なすぎる	ちょうどよい	多すぎる
全体		1,904	9.8	70.8	19.4
学校名	大井沢小学校	111	26.1	72.1	1.8
	大野小学校	49	65.3	32.7	2.0
	高野小学校	58	51.7	46.6	1.7
	守谷小学校	269	3.0	89.6	7.4
	黒内小学校	406	1.0	29.3	69.7
	御所ヶ丘小学校	124	19.4	80.6	0.0
	郷州小学校	86	38.4	57.0	4.7
	松前台小学校	90	21.1	77.8	1.1
	松ヶ丘小学校	199	1.0	98.0	1.0
	守谷中学校	116	1.7	86.2	12.1
	愛宕中学校	137	0.0	91.2	8.8
	御所ヶ丘中学校	148	0.7	82.4	16.9
	けやき台中学校	109	1.8	93.6	4.6

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 児童生徒数や学級数が少なすぎる「小規模校」のデメリットとして、以下のような点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください（SA）

⇒『デメリットだと思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）』と回答した割合は、「PTA など、保護者 1 人あたりの負担が大きい」が 82.7%で最も高く、次いで、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい(81.9%)」、「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない (74.0%)」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる (55.1%)」の順となっている。

図表 3 小規模校のデメリットについて



小規模校のデメリットを点数化¹した平均値をみると、「PTA など、保護者 1 人あたりの負担が大きい」が 3.31 で最も高く、次いで、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい (3.29)」、「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない (3.05)」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる (2.71)」の順となっている。

平均値を属性別にみると、「大野小学校」での「PTA など、保護者 1 人あたりの負担が大きい (3.69)」、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい (3.53)」、「けやき台中学校」での「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる (2.95)」、「学級数が少なすぎる」での「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない (3.31)」などが全体に比べ高くなっている。

¹ 「1. そう思う」～「4. そう思わない」を両極とする 4 段階尺度において、それぞれ「1. そう思う」を 4 点～「4. そう思わない」を 1 点として点数化した。

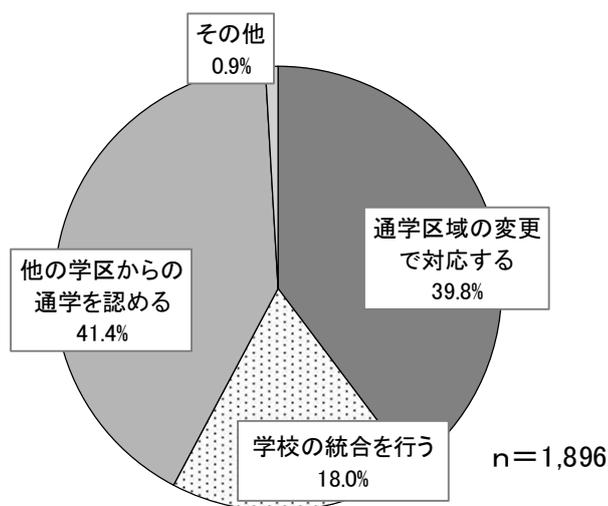
図表 4 小規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

		件数	①クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい	②多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない	③人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる	④PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい
全体		1,901	3.29	3.05	2.71	3.31
学校区分	小学生	1,364	3.29	3.03	2.65	3.29
	中学生	524	3.31	3.13	2.86	3.38
学年	小学2年生	497	3.31	3.03	2.64	3.34
	小学4年生	424	3.19	2.95	2.59	3.25
	小学6年生	446	3.34	3.07	2.73	3.26
	中学1年生	323	3.31	3.12	2.84	3.38
	中学3年生	202	3.30	3.15	2.90	3.37
学校名	大井沢小学校	113	3.37	3.12	2.67	3.09
	大野小学校	49	3.53	3.27	2.47	3.69
	高野小学校	58	3.33	3.03	2.60	3.43
	守谷小学校	268	3.37	3.08	2.72	3.33
	黒内小学校	402	3.41	3.10	2.71	3.34
	御所ヶ丘小学校	124	2.99	2.88	2.39	3.04
	郷州小学校	87	2.97	2.69	2.51	3.01
	松前台小学校	89	2.90	2.73	2.47	3.31
	松ヶ丘小学校	198	3.29	3.04	2.84	3.39
	守谷中学校	116	3.44	3.22	2.86	3.39
	愛宕中学校	137	3.30	3.11	2.74	3.29
	御所ヶ丘中学校	149	3.20	3.04	2.87	3.44
	けやき台中学校	109	3.34	3.17	2.95	3.38
学級数	1学級	149	3.28	2.99	2.58	3.34
	2学級	399	3.09	2.90	2.49	3.15
	3学級	136	3.26	2.98	2.80	3.35
	4学級	435	3.36	3.13	2.80	3.38
	5学級	445	3.42	3.15	2.80	3.33
	6学級以上	330	3.29	3.06	2.76	3.35
学級数	少なすぎる	186	3.49	3.31	2.75	3.39
	ちょうどよい	1,344	3.22	3.00	2.70	3.29
	多すぎる	365	3.44	3.14	2.72	3.37

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 小規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)
⇒ 「他の学区からの通学を認める」が 41.4%と最も高く、次いで「通学区域の変更で対応する (39.8%)」、「学校の統合を行う (18.0%)」となっている。

図表 5 小規模校の対応策



属性別では、「郷州小学校」での「他の学区からの通学を認める (51.7%)」、「大野小学校」での「通学区域の変更で対応する (46.9%)」、「愛宕中学校」での「通学区域の変更で対応する (48.9%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 6 小規模校の対応策（クロス集計）

（単位：％）

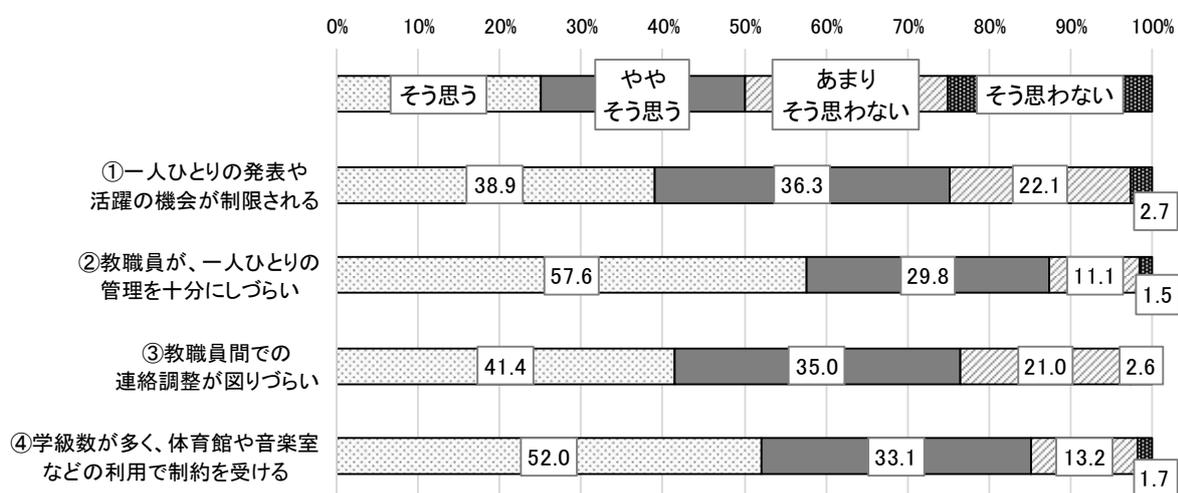
		件数	通学区域の変更 で対応する	学校の統合 を行う	他の学区からの 通学を認める	その他
全体		1,896	39.8	18.0	41.4	0.9
学校区分	小学生	1,360	38.2	18.1	42.6	1.1
	中学生	523	43.6	17.8	38.4	0.2
学年	小学2年生	495	38.2	17.6	43.4	0.8
	小学4年生	423	36.4	17.0	44.9	1.7
	小学6年生	445	40.4	19.1	39.3	1.1
	中学1年生	322	43.5	18.0	38.5	0.0
	中学3年生	202	42.1	17.8	39.6	0.5
学校名	大井沢小学校	113	38.9	17.7	43.4	0.0
	大野小学校	49	46.9	8.2	44.9	0.0
	高野小学校	58	37.9	17.2	44.8	0.0
	守谷小学校	268	38.1	19.0	41.4	1.5
	黒内小学校	400	41.8	19.8	37.8	0.8
	御所ヶ丘小学校	122	33.6	19.7	44.3	2.5
	郷州小学校	87	37.9	6.9	51.7	3.4
	松前台小学校	90	32.2	21.1	44.4	2.2
	松ヶ丘小学校	197	37.1	17.8	44.7	0.5
	守谷中学校	116	46.6	17.2	36.2	0.0
	愛宕中学校	137	48.9	14.6	36.5	0.0
	御所ヶ丘中学校	149	33.6	19.5	46.3	0.7
	けやき台中学校	108	43.5	22.2	34.3	0.0
学級数	1学級	149	38.9	11.4	48.3	1.3
	2学級	399	36.6	18.5	43.4	1.5
	3学級	135	37.0	14.1	48.1	0.7
	4学級	433	40.4	18.7	40.0	0.9
	5学級	444	44.4	21.2	33.8	0.7
	6学級以上	329	38.6	16.7	44.4	0.3
学級数	少なすぎる	186	38.2	16.1	44.6	1.1
	ちょうどよい	1,339	40.0	18.1	41.1	0.9
	多すぎる	365	40.3	18.6	40.3	0.8

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 児童生徒数や学級数が多すぎる「大規模校」のデメリットとして、以下のよう
な点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください
(SA)

⇒『デメリットだと思う(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)』と回答し
た割合は、「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい」が87.4%で最
も高く、次いで、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受け
る(85.1%)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(76.4%)」、「一人ひと
りの発表や活躍の機会が制限される(75.2%)」の順となっている。

図表 7 大規模校のデメリットについて



大規模校のデメリットを点数化した平均値をみると、「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい」が3.43で最も高く、次いで、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける(3.35)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(3.15)」、「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.11)」の順となっている。

平均値を属性別にみると、「郷州小学校」での「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい(3.74)」、「黒内小学校」での「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける(3.56)」、「大野小学校」での「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.35)」、「学級数が大すぎる」での「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける(3.64)」、「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.39)」などが全体に比べ高くなっている。

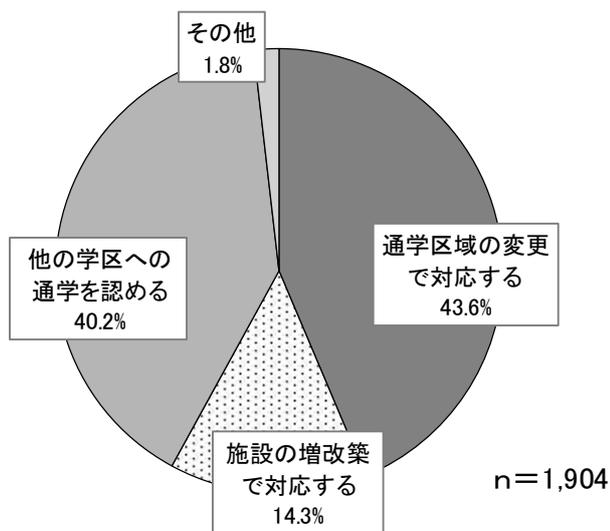
図表 8 大規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

		件数	①一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される	②教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい	③教職員間での連絡調整が図りづらい	④学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける
全体		1,906	3.11	3.43	3.15	3.35
学校区分	小学生	1,371	3.15	3.44	3.16	3.40
	中学生	522	3.02	3.42	3.12	3.22
学年	小学2年生	500	3.22	3.48	3.18	3.48
	小学4年生	428	3.18	3.43	3.18	3.41
	小学6年生	446	3.04	3.40	3.13	3.31
	中学1年生	323	3.04	3.43	3.16	3.22
	中学3年生	200	3.01	3.40	3.06	3.23
学校名	大井沢小学校	113	3.09	3.42	3.12	3.35
	大野小学校	49	3.35	3.45	3.22	3.31
	高野小学校	58	3.07	3.47	3.10	3.21
	守谷小学校	268	3.12	3.44	3.16	3.36
	黒内小学校	407	3.19	3.32	3.10	3.56
	御所ヶ丘小学校	124	3.16	3.44	3.15	3.26
	郷州小学校	87	3.23	3.74	3.30	3.40
	松前台小学校	90	3.12	3.48	3.30	3.47
	松ヶ丘小学校	199	3.06	3.53	3.20	3.31
	守谷中学校	115	3.20	3.47	3.11	3.41
	愛宕中学校	137	3.00	3.36	3.07	3.04
	御所ヶ丘中学校	149	2.89	3.36	3.09	3.17
	けやき台中学校	108	3.08	3.55	3.25	3.32
学級数	1学級	149	3.13	3.48	3.17	3.25
	2学級	400	3.16	3.50	3.19	3.36
	3学級	137	3.10	3.53	3.30	3.36
	4学級	434	3.10	3.48	3.10	3.32
	5学級	446	3.11	3.32	3.12	3.33
	6学級以上	332	3.09	3.39	3.14	3.46
学級数	少なすぎる	186	3.18	3.49	3.16	3.35
	ちょうどよい	1,344	3.03	3.40	3.10	3.28
	多すぎる	370	3.39	3.54	3.32	3.64

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 大規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)
⇒ 「通学区域の変更で対応する」が 43.6%と最も高く、次いで「他の学区への通学を認める (40.2%)」、「施設の増改築で対応する (14.3%)」となってい

図表 9 大規模校の対応策



属性別では、「高野小学校」での「他の学区への通学を認める (55.2%)」、「御所ヶ丘小学校」での「他の学区への通学を認める (47.6%)」、「中学3年生」での「通学区域の変更で対応する (50.7%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 10 大規模校の対応策（クロス集計）

（単位：％）

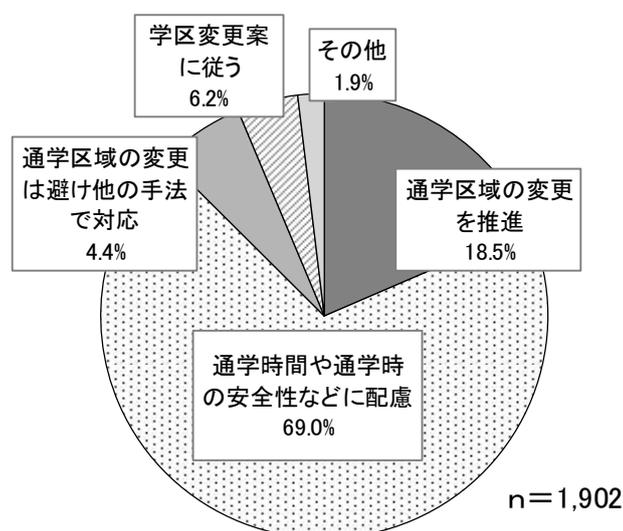
		件数	通学区域の変更 で対応する	施設の増改築 で対応する	他の学区への 通学を認める	その他
全体		1,904	43.6	14.3	40.2	1.8
学校区分	小学生	1,369	42.2	14.7	41.1	2.0
	中学生	522	47.3	13.8	37.7	1.1
学年	小学2年生	501	40.1	15.2	43.3	1.4
	小学4年生	427	40.5	13.6	42.6	3.3
	小学6年生	444	46.6	14.9	36.7	1.8
	中学1年生	322	44.4	14.9	39.4	1.2
	中学3年生	201	50.7	11.9	36.3	1.0
学校名	大井沢小学校	113	40.7	11.5	45.1	2.7
	大野小学校	49	46.9	14.3	38.8	0.0
	高野小学校	58	39.7	3.4	55.2	1.7
	守谷小学校	269	42.4	16.0	41.3	0.4
	黒内小学校	406	45.1	16.7	34.5	3.7
	御所ヶ丘小学校	124	37.1	12.9	47.6	2.4
	郷州小学校	87	40.2	10.3	46.0	3.4
	松前台小学校	89	37.1	16.9	44.9	1.1
	松ヶ丘小学校	198	43.4	15.2	40.4	1.0
	守谷中学校	115	46.1	13.9	37.4	2.6
	愛宕中学校	137	48.9	12.4	38.7	0.0
	御所ヶ丘中学校	149	43.6	14.1	42.3	0.0
	けやき台中学校	108	50.0	14.8	32.4	2.8
学級数	1学級	149	40.3	13.4	45.6	0.7
	2学級	400	38.5	13.5	45.8	2.3
	3学級	136	42.6	12.5	44.1	0.7
	4学級	433	44.6	16.2	38.6	0.7
	5学級	446	49.3	15.0	32.7	2.9
	6学級以上	332	43.4	13.0	41.6	2.1
学級数	少なすぎる	186	44.1	14.5	40.9	0.5
	ちょうどよい	1,343	43.1	14.9	40.5	1.5
	多すぎる	369	45.3	12.5	38.8	3.5

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 今後、市内の大規模校について、対策として「通学区域の変更」がどうしても必要となる可能性があります。その場合のあなたの考え方に最も近いものをお選びください (MA)

⇒「学区変更はやむを得ないが、通学時間や通学時の安全性などに配慮してほしい」が69.0%と最も高く、次いで「大規模校のデメリットを考えると、通学区域の変更を推進すべき(18.5%)」、「市(教育委員会)が適切な学区変更案を提示してくれるだろうから、その決定に従う(6.2%)」、「通学区域の変更は避けるべき。大規模校となっても、他の手法で対応すべき(4.4%)」となっている。

図表 11 大規模校における通学区域変更への考え方



属性別では、「大井沢小学校」での「大規模校のデメリットを考えると、通学区域の変更を推進すべき(26.5%)」、「高野小学校」での「大規模校のデメリットを考えると、通学区域の変更を推進すべき(29.3%)」、「市(教育委員会)が適切な学区変更案を提示してくれるだろうから、その決定に従う(13.8%)」、「愛宕中学校」での「学区変更はやむを得ないが、通学時間や通学時の安全性などに配慮してほしい(80.3%)」、「学級数が少なすぎる」での「大規模校のデメリットを考えると、通学区域の変更を推進すべき(25.8%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 12 大規模校における通学区域変更への考え方（クロス集計）

（単位：％）

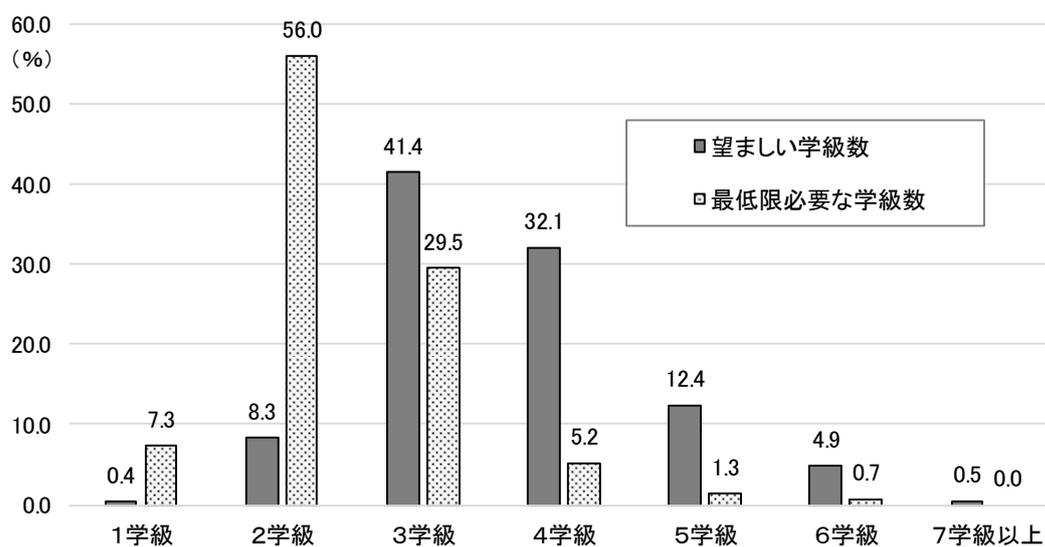
		件数	大規模校のデメリットを考えると、通学区域の変更を推進すべき	学区変更はやむを得ないが、通学時間や通学時の安全性などに配慮してほしい	市（教育委員会）が適切な学区変更案を提示してくれるだろうから、その決定に従う	通学区域の変更は避けるべき。大規模校となっても、他の手法で対応すべき	その他
全体		1,902	18.5	69.0	6.2	4.4	1.9
学校区分	小学生	1,367	18.7	67.5	6.6	4.8	2.4
	中学生	522	18.0	72.8	5.4	3.1	0.8
学年	小学2年生	498	19.7	68.1	4.8	5.2	2.2
	小学4年生	427	18.7	68.1	5.6	5.2	2.3
	小学6年生	445	17.5	66.7	8.8	4.3	2.7
	中学1年生	322	16.8	72.4	6.2	3.7	0.9
	中学3年生	201	19.4	74.1	4.0	2.0	0.5
学校名	大井沢小学校	113	26.5	67.3	3.5	1.8	0.9
	大野小学校	49	22.4	61.2	10.2	6.1	0.0
	高野小学校	58	29.3	55.2	13.8	1.7	0.0
	守谷小学校	269	14.1	74.7	6.7	2.6	1.9
	黒内小学校	404	19.6	63.1	6.2	7.2	4.0
	御所ヶ丘小学校	124	14.5	71.8	4.8	6.5	2.4
	郷州小学校	87	23.0	65.5	5.7	3.4	2.3
	松前台小学校	90	20.0	66.7	8.9	4.4	0.0
	松ヶ丘小学校	197	15.2	70.1	6.6	5.1	3.0
	守谷中学校	115	20.0	70.4	4.3	4.3	0.9
	愛宕中学校	137	14.6	80.3	3.6	0.7	0.7
	御所ヶ丘中学校	149	18.1	69.8	6.7	4.7	0.7
	けやき台中学校	108	17.6	72.2	5.6	3.7	0.9
学級数	1学級	149	23.5	59.1	11.4	4.7	1.3
	2学級	401	20.7	68.3	5.7	4.0	1.2
	3学級	135	18.5	68.9	3.7	5.9	3.0
	4学級	433	14.8	73.9	6.5	3.2	1.6
	5学級	446	16.1	71.1	6.1	4.5	2.2
	6学級以上	330	21.2	64.8	5.5	5.8	2.7
学級数	少なすぎる	186	25.8	62.9	7.0	3.8	0.5
	ちょうどよい	1,342	16.7	70.4	6.5	4.5	1.9
	多すぎる	368	21.2	66.6	4.9	4.6	2.7

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 今後、少子化の進行により小規模な学校が増えることが予想されます。そうした状況も踏まえて、あなたが考える1学年当たりの「①望ましい学級数」、
「②最低限必要な学級数」を、以下の選択肢の中からお選びください (SA)

⇒ 「望ましい学級数」では、「3学級 (41.4%)」、「4学級 (32.1%)」が高く、
「最低限必要な学級数」では「2学級 (56.0%)」、「3学級 (29.5%)」が高い。

図表 13 望ましい学級数/最低限必要な学級数

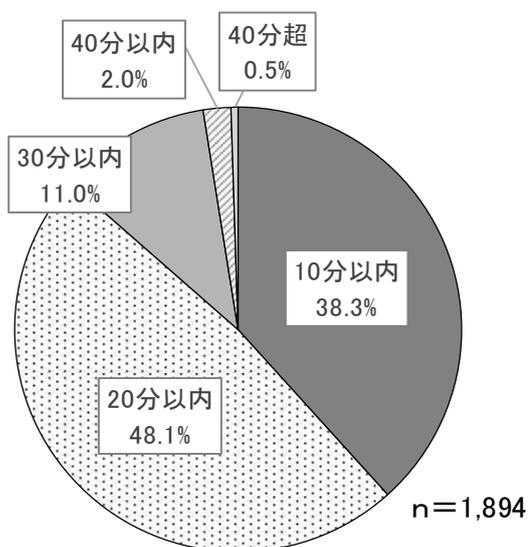


3.学校の「配置」等について

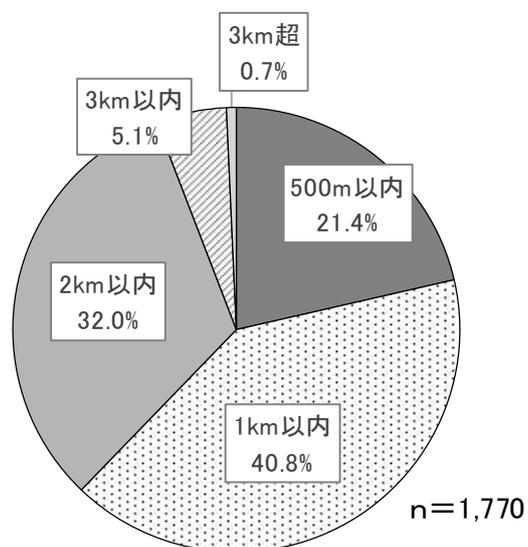
問. 対象のお子さまの、現在の通学時間・通学距離はどのくらいですか (MA)

⇒「現在の通学時間」では、「20分超」が3.5%、現在の通学距離では「2km超」が5.8%となっている。

図表 14 現在の通学時間



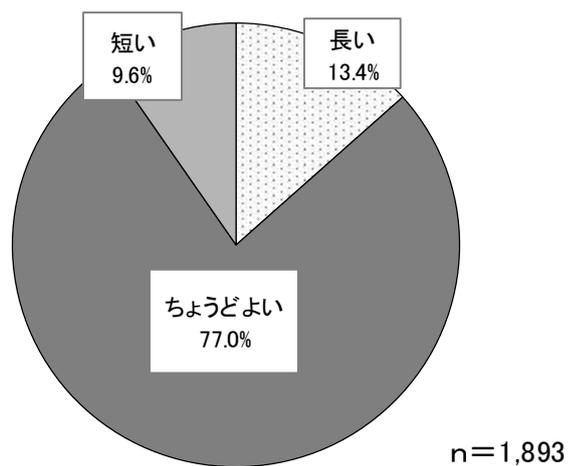
図表 15 現在の通学距離



問. 現在のお子さまの通学時間・通学距離について、どう感じていますか (MA)

⇒ 「長い」が 13.4%となっている。

図表 16 通学時間・通学距離について



通学時間・通学距離について、『長い』と回答した割合をみると、学校別では、「高野小学校 (31.0%)」、「大野小学校 (30.6%)」、「守谷小学校 (22.0%)」などで高く、通学時間では「20 分超」以降、通学距離では「1 km超」以降で高くなっている。

図表 17 通学時間・通学距離について（クロス集計）

（単位：％）

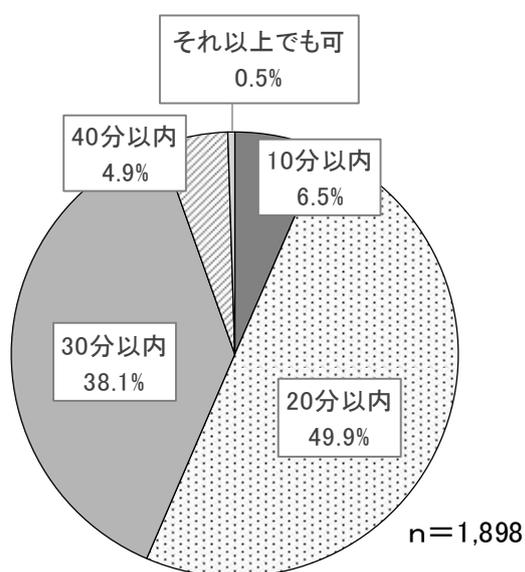
		件数	長い	ちょうどよい	短い
全体		1,893	13.4	77.0	9.6
学校区分	小学生	1,360	15.2	74.9	9.9
	中学生	519	8.5	82.5	9.1
学年	小学2年生	498	17.7	72.7	9.6
	小学4年生	426	15.0	77.7	7.3
	小学6年生	438	13.0	74.2	12.8
	中学1年生	320	9.1	82.5	8.4
	中学3年生	200	7.5	82.5	10.0
学校名	大井沢小学校	111	9.9	67.6	22.5
	大野小学校	49	30.6	65.3	4.1
	高野小学校	58	31.0	63.8	5.2
	守谷小学校	268	22.0	73.9	4.1
	黒内小学校	401	14.0	77.6	8.5
	御所ヶ丘小学校	124	14.5	75.8	9.7
	郷州小学校	85	18.8	71.8	9.4
	松前台小学校	89	5.6	80.9	13.5
	松ヶ丘小学校	198	6.1	78.8	15.2
	守谷中学校	116	11.2	81.0	7.8
	愛宕中学校	134	11.9	80.6	7.5
	御所ヶ丘中学校	148	4.7	89.2	6.1
	けやき台中学校	108	6.5	78.7	14.8
通学時間	10分以内	722	0.4	76.0	23.5
	20分以内	905	11.4	87.6	1.0
	30分以内	208	51.0	48.6	0.5
	40分以内	38	81.6	18.4	0.0
	40分超	10	100.0	0.0	0.0
通学距離	500m以内	377	0.5	66.3	33.2
	1km以内	723	5.8	89.3	4.8
	2km以内	562	27.0	71.9	1.1
	3km以内	89	34.8	64.0	1.1
	3km超	12	75.0	25.0	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

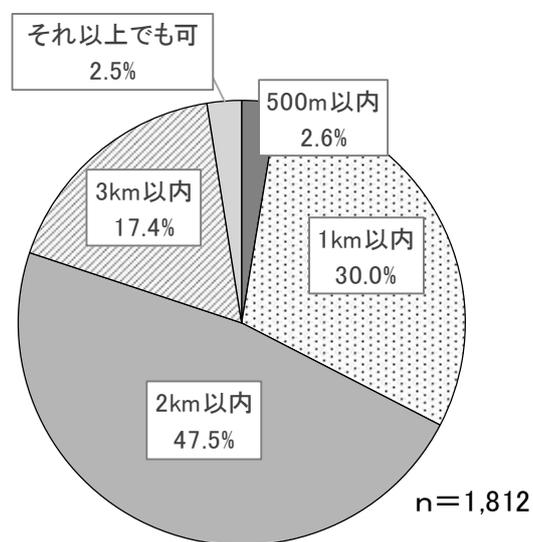
問. 学校によっては学区が広いため、現実的に通学時間・通学距離が長くなるケースも生じています。許容できる通学時間・通学距離は、どのくらいだと考えますか (MA)

⇒「許容できる通学時間」では、「20分以内」までが半数以上 (56.4%)、「許容できる通学距離」では、「2 km以内」までが約 8 割 (80.1%) となっている。

図表 18 許容できる通学時間



図表 19 許容できる通学距離



「許容できる通学時間」を属性別にみると、「高野小学校」での「30分以内 (50.0%)」が全体に比べ高くなっている。また、「現在の通学時間が 40分以内」での「30分以内 (56.8%)」が多くなっており、現在の通学時間より短い許容時間の回答割合が高い。

図表 20 許容できる通学時間・距離（クロス集計）

(単位：%)

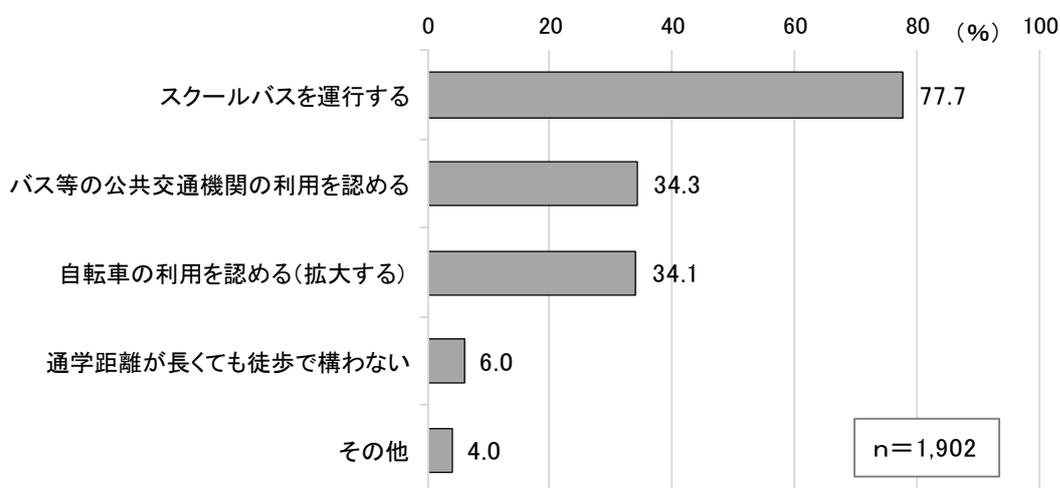
	件数	許容できる通学時間					許容できる通学距離				
		10分以内	20分以内	30分以内	40分以内	それ以上でも可	500m以内	1km以内	2km以内	3km以内	それ以上でも可
全体	-	6.5	49.9	38.1	4.9	0.5	2.6	30.0	47.5	17.4	2.5
学校区分											
小学生	1,362	7.0	49.1	37.8	5.5	0.5	3.3	36.3	49.2	9.9	1.3
中学生	521	5.4	51.4	39.2	3.5	0.6	1.0	14.2	42.6	36.9	5.3
学年											
小学2年生	499	4.4	52.1	38.5	5.0	0.0	3.4	35.3	51.4	8.8	1.1
小学4年生	425	7.5	50.6	35.3	5.6	0.9	2.2	40.0	48.1	8.1	1.5
小学6年生	441	9.3	44.9	39.2	5.9	0.7	3.8	34.2	47.7	12.8	1.4
中学1年生	322	5.6	50.9	38.8	3.7	0.9	1.0	17.1	42.2	33.7	6.0
中学3年生	200	5.0	52.5	40.0	2.5	0.0	1.0	9.3	44.3	40.7	4.6
学校名											
大井沢小学校	111	8.1	52.3	31.5	8.1	0.0	3.9	37.3	44.1	12.7	2.0
大野小学校	49	6.1	57.1	34.7	2.0	0.0	4.3	41.3	41.3	13.0	0.0
高野小学校	58	3.4	34.5	50.0	8.6	3.4	1.9	17.3	59.6	15.4	5.8
守谷小学校	269	6.3	43.5	42.0	7.4	0.7	1.5	34.4	52.3	9.9	1.9
黒内小学校	403	5.7	51.9	37.7	4.2	0.5	3.6	38.1	50.3	7.3	0.8
御所ヶ丘小学校	124	6.5	42.7	46.8	4.0	0.0	2.5	36.4	46.3	12.4	2.5
郷州小学校	86	4.7	53.5	32.6	9.3	0.0	2.6	35.1	45.5	15.6	1.3
松前台小学校	88	13.6	55.7	28.4	2.3	0.0	9.1	32.5	49.4	9.1	0.0
松ヶ丘小学校	198	9.1	52.5	33.3	4.5	0.5	2.6	38.2	49.7	8.9	0.5
守谷中学校	116	6.9	51.7	37.9	2.6	0.9	1.8	14.2	41.6	38.1	4.4
愛宕中学校	136	8.8	51.5	36.8	2.2	0.7	0.8	9.8	42.4	42.4	4.5
御所ヶ丘中学校	148	3.4	52.7	38.5	4.7	0.7	0.7	16.2	39.4	35.2	8.5
けやき台中学校	108	2.8	50.0	43.5	3.7	0.0	0.9	18.7	44.9	31.8	3.7
通学時間											
10分以内	724	11.3	59.4	26.9	2.1	0.3	4.1	36.4	43.8	14.2	1.5
20分以内	908	3.7	47.9	43.0	4.7	0.7	1.5	25.1	49.6	20.4	3.4
30分以内	207	2.9	30.4	54.1	12.1	0.5	2.6	28.1	52.6	15.3	1.5
40分以内	37	0.0	24.3	56.8	18.9	0.0	0.0	36.4	48.5	15.2	0.0
40分超	10	0.0	30.0	30.0	30.0	10.0	0.0	22.2	44.4	11.1	22.2
通学距離											
500m以内	378	11.6	57.4	28.6	1.9	0.5	8.3	50.3	34.7	6.2	0.5
1km以内	723	5.8	50.2	37.8	5.7	0.6	1.0	36.3	52.3	9.0	1.4
2km以内	564	4.1	43.6	46.5	5.9	0.0	1.1	12.3	54.5	29.5	2.7
3km以内	90	6.7	45.6	38.9	6.7	2.2	0.0	3.4	24.7	56.2	15.7
3km超	12	0.0	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0	8.3	33.3	33.3	25.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 通学距離が長く、許容できる通学時間を超える児童生徒がいる場合、どのような配慮が必要だと考えますか (MA)

⇒「スクールバスを運行する」が77.7%で最も高く、次いで「バス等の公共交通機関の利用を認める(34.3%)」、「自転車の利用を認める[拡大する](34.1%)」となっている。

図表 21 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (MA)



属性別では、「黒内小学校」での「スクールバスを運行する(90.4%)」、「大井沢小学校」での「バス等の公共交通機関の利用を認める(54.5%)」などが全体に比べ多くなっている。また「自転車の利用を認める[拡大する](34.1%)」は中学生で高くなっている。

図表 22 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮（クロス集計）

(単位: %)

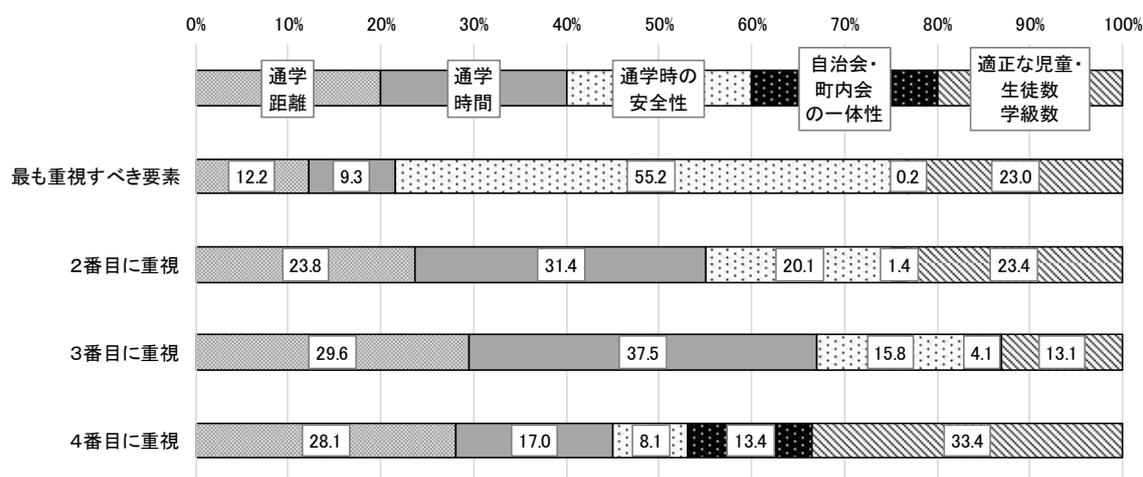
		件数	スクールバスを 運行する	バス等の公共交通 機関の利用を 認める	自転車の利用を 認める (拡大する)	通学距離が 長くても 徒歩で構わない
全体		1,902	77.7	34.3	34.1	6.0
学校区分	小学生	1,364	83.3	31.5	22.1	7.6
	中学生	523	62.7	41.3	65.4	2.1
学年	小学2年生	499	86.0	30.3	16.4	5.8
	小学4年生	426	84.7	33.6	22.3	7.5
	小学6年生	442	79.0	31.2	28.5	9.7
	中学1年生	323	63.5	40.6	60.7	1.5
	中学3年生	202	61.9	43.1	73.8	3.0
学校名	大井沢小学校	112	83.0	54.5	17.9	4.5
	大野小学校	49	79.6	30.6	18.4	8.2
	高野小学校	57	80.7	35.1	14.0	15.8
	守谷小学校	269	81.0	32.7	25.3	8.2
	黒内小学校	405	90.4	25.2	16.8	7.2
	御所ヶ丘小学校	124	78.2	33.1	35.5	2.4
	郷州小学校	86	77.9	29.1	24.4	5.8
	松前台小学校	88	75.0	29.5	26.1	8.0
	松ヶ丘小学校	198	78.8	30.8	27.3	10.1
	守谷中学校	116	75.0	38.8	44.8	4.3
	愛宕中学校	137	62.8	43.8	59.1	2.2
	御所ヶ丘中学校	148	63.5	41.2	78.4	1.4
	けやき台中学校	109	54.1	43.1	77.1	0.9
通学時間	10分以内	725	76.1	36.4	36.4	4.8
	20分以内	910	79.0	33.4	35.4	4.9
	30分以内	208	76.0	31.7	23.6	13.0
	40分以内	36	77.8	36.1	25.0	8.3
	40分超	10	80.0	20.0	20.0	30.0
通学距離	500m以内	378	79.4	35.7	31.0	5.6
	1km以内	723	78.3	35.0	32.0	5.4
	2km以内	564	78.4	33.3	37.9	6.7
	3km以内	89	61.8	41.6	50.6	7.9
	3km超	12	58.3	41.7	25.0	8.3

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 学校の適正配置・学区の設定を検討するうえでは「①通学距離」、「②通学時間」、「③通学時の安全性」、「④自治会・町内会の一体性」、「⑤適正な児童・生徒数、学級数」などの要素を考慮していく必要があります。①～⑤のなかで、あなたが最も重視すべきと考える要素、2番目、3番目、4番目に重視すべきと考える要素をお答えください。

⇒最も重視すべき要素では、「通学時の安全性」が 55.2%と最も高く、次いで、「適正な児童・生徒数、学級数 (23.0%)」、「通学距離 (12.2%)」の順となっている。

図表 23 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素



学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素を点数化²した平均値をみると、「通学時の安全」が 3.24 で最も高く、「適正な児童・生徒数、学級数」が 2.39、「通学時間」が 2.35、「通学距離」が 2.22、「自治会・町内会の一体性」が 1.39 となっている。

図表 24 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素（点数化）

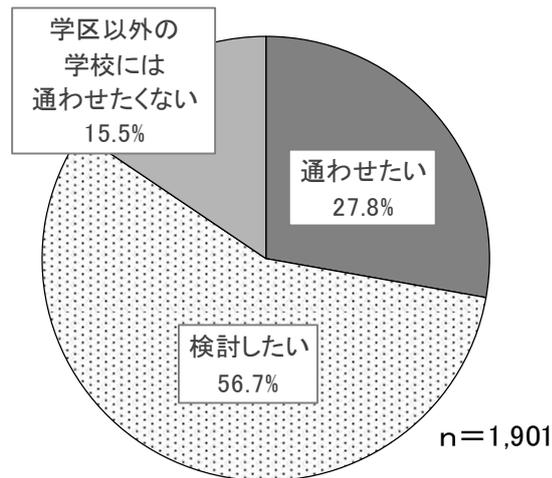
通学距離	通学時間	通学時の安全性	自治会・町内会の一体性	適正な児童・生徒数、学級数
2.22	2.35	3.24	1.39	2.39

² 「最も重視すべき」～「4番目に重視」までの選択肢において、それぞれ「最も重視すべき」を4点～「4番目に重視」を1点として点数化した。

問. 仮に、お子さまの学校の学区以外の場所に、特別な教育に特化した公立の小中学校が設置された場合、お子さまを通わせたいと考えますか (MA)

⇒ 「通わせたい」が27.8%、「検討したい」が56.7%となっている。

図表 25 特別な教育に特化した公立の小中学校への通学意向



「通わせたい」と回答した割合を属性別にみると、「私立中学に通う予定 (53.3%)」、「県立中学・中等校に通う予定 (43.3%)」、「学級数が少なすぎる (35.1%)」などで全体に比べ高くなっている。

図表 26 特別な教育に特化した公立の小中学校への通学意向（クロス集計）

（単位：％）

		件数	通わせたい	検討したい	学区以外の 学校には 通わせたくない
全体		1,901	27.8	56.7	15.5
学校区分	小学生	1,363	28.8	55.4	15.8
	中学生	523	25.6	59.7	14.7
学校名	大井沢小学校	111	31.5	52.3	16.2
	大野小学校	49	28.6	44.9	26.5
	高野小学校	57	33.3	50.9	15.8
	守谷小学校	269	36.4	51.3	12.3
	黒内小学校	404	26.2	58.7	15.1
	御所ヶ丘小学校	124	25.8	54.8	19.4
	郷州小学校	85	27.1	60.0	12.9
	松前台小学校	90	27.8	55.6	16.7
	松ヶ丘小学校	198	23.7	60.1	16.2
	守谷中学校	116	23.3	61.2	15.5
	愛宕中学校	137	26.3	58.4	15.3
	御所ヶ丘中学校	148	25.0	60.8	14.2
	けやき台中学校	109	27.5	56.9	15.6
	進学先	市立中学校に通う予定	973	24.5	56.0
私立中学校に通う予定		60	53.3	43.3	3.3
県立中学・中等校に通う予定		104	43.3	45.2	11.5
学級数	少なすぎる	185	35.1	48.6	16.2
	ちょうどよい	1,340	25.8	58.4	15.7
	多すぎる	368	31.8	54.6	13.6
通学時間	10分以内	722	26.9	56.5	16.6
	20分以内	910	27.6	58.2	14.2
	30分以内	209	30.6	50.7	18.7
	40分以内	37	32.4	56.8	10.8
	40分超	10	40.0	40.0	20.0
通学距離	500m以内	377	27.3	58.4	14.3
	1km以内	722	28.7	55.8	15.5
	2km以内	566	28.8	55.5	15.7
	3km以内	89	28.1	58.4	13.5
	3km超	12	58.3	41.7	0.0
通学時間・ 通学距離	長い	253	33.6	51.4	15.0
	ちょうどよい	1,453	26.8	57.5	15.6
	短い	181	28.7	56.4	14.9

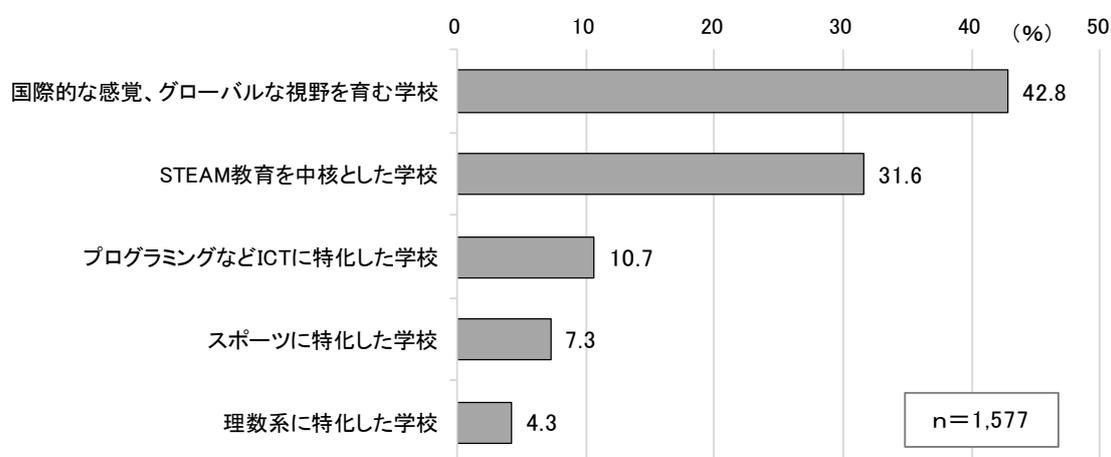
※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. どのような学校なら通わせたいですか (MA)

※対象：前問で『通わせたい』、『検討したい』と回答した人のみ

⇒「国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校」が 42.3%で最も高く、次いで「STEAM 教育を中核とした学校 (31.6%)」、「プログラミングなど ICT に特化した学校 (10.7%)」となっている。

図表 27 通わせたい学校



属性別では、「学級数が少なすぎる」での「国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校(52.9%)」、「大野小学校」での「プログラミングなど ICT に特化した学校(22.9%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 28 通わせたい学校（クロス集計）

（単位：％）

		件数	国際的な感覚、 グローバルな視野 を育む学校	理数系に特化 した学校	プログラミング などICTに 特化した学校	スポーツに 特化した学校	STEAM教育を 中核とした学校
全体		1,577	42.8	4.3	10.7	7.3	31.6
学校区分	小学生	1,126	42.7	3.7	10.8	6.6	32.8
	中学生	438	43.6	5.9	10.3	9.1	27.9
学校名	大井沢小学校	92	50.0	1.1	17.4	6.5	23.9
	大野小学校	35	48.6	2.9	22.9	8.6	17.1
	高野小学校	47	42.6	6.4	12.8	14.9	19.1
	守谷小学校	233	47.6	2.6	8.2	4.3	35.2
	黒内小学校	338	39.9	3.6	9.5	3.8	39.3
	御所ヶ丘小学校	99	26.3	6.1	12.1	10.1	38.4
	郷州小学校	72	45.8	2.8	6.9	4.2	37.5
	松前台小学校	71	47.9	5.6	8.5	12.7	22.5
	松ヶ丘小学校	161	42.9	4.3	9.9	9.3	28.0
	守谷中学校	96	45.8	4.2	12.5	7.3	28.1
	愛宕中学校	114	50.9	3.5	9.6	6.1	26.3
	御所ヶ丘中学校	126	35.7	8.7	12.7	11.9	28.6
	けやき台中学校	90	41.1	7.8	7.8	11.1	30.0
	進学先	市立中学校に通う予定	764	42.9	3.3	11.4	8.6
私立中学校に通う予定		58	44.8	3.4	8.6	0.0	39.7
県立中学・中等校に通う予定		92	45.7	8.7	10.9	2.2	28.3
学級数	少なすぎる	155	52.9	1.9	11.6	7.7	23.9
	ちょうどよい	1,103	42.0	5.3	10.3	7.5	31.5
	多すぎる	314	40.8	2.2	11.1	6.4	35.7
通学時間	10分以内	588	44.6	3.6	11.7	7.7	29.3
	20分以内	768	41.5	5.6	10.7	6.8	32.3
	30分以内	167	44.9	1.8	8.4	7.8	32.9
	40分以内	33	36.4	0.0	6.1	9.1	42.4
	40分超	8	50.0	12.5	0.0	12.5	25.0
通学距離	500m以内	317	44.8	4.1	10.4	6.0	31.5
	1km以内	602	41.0	5.0	12.6	7.6	30.6
	2km以内	470	41.5	3.6	9.1	5.7	35.7
	3km以内	76	42.1	3.9	11.8	15.8	22.4
	3km超	12	41.7	16.7	8.3	25.0	8.3
通学時間・ 通学距離	長い	213	46.5	3.3	10.3	7.0	30.0
	ちょうどよい	1,202	42.1	4.4	10.7	7.7	31.9
	短い	150	42.7	5.3	10.0	5.3	32.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

II. 未就学児保護者向けアンケート調査

●調査方法

- ・調査対象 : 1,800 件
- ・回収数 : 1,003 件 (紙アンケート: 540 件、WEB 回答: 463 件)
- ・調査方法 : 紙アンケートの調査票の配布および WEB フォーマットへの回答により回収
- ・調査時期 : 令和 5 年 6 ~ 7 月

●調査結果の見方

(1) 本文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。

- ・「SA」(Single Answer): 単一回答形式 (選択肢の中から 1 つを選択してもらう設問)
- ・「MA」(Multiple Answer): 複数回答形式 (選択肢の中から複数を選択してもらう設問)

(2) 集計結果の比率は、各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してある。その結果として「SA」(単一回答形式) では、この比率の合計が 100%にならないこともある。

(3) 「MA」(複数回答形式) では回答者が複数の選択肢を選択するため、百分比 (%) の合計は、一般的に 100%を上回る。

(4) 見やすさに配慮するため、本文中のグラフ・表中の選択肢標記の語句の簡略化を行っている。

1.お子さまについて

対象の子どもの基本属性は以下の通り。

図表 29 基本属性

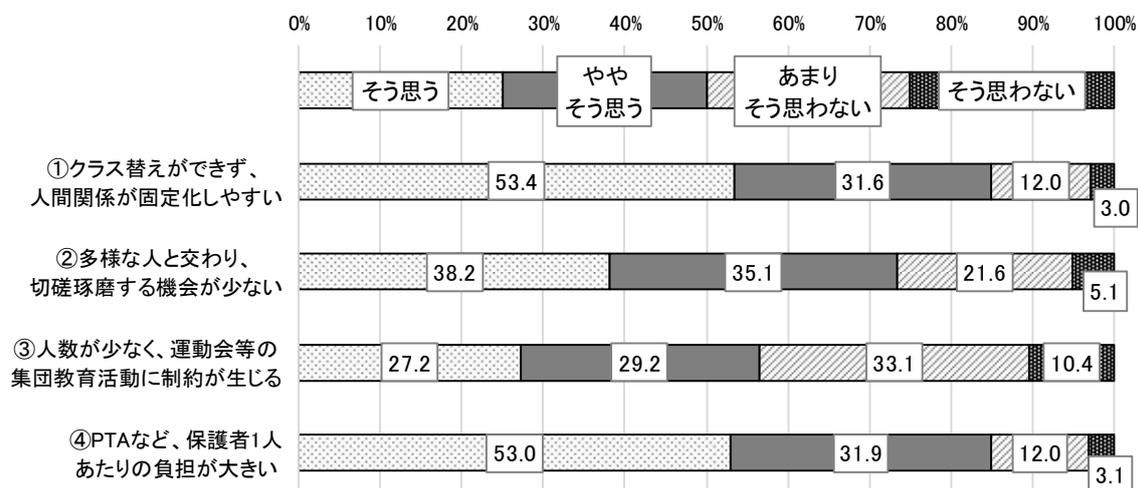
		件数	構成比(%)	
居住地	板戸井	21	2.1	
	松前台	33	3.3	
	大山新田	1	0.1	
	久保ヶ丘	14	1.4	
	薬師台	41	4.1	
	緑	0	0.0	
	大木	2	0.2	
	松並	28	2.8	
	本町	105	10.5	
	百合ヶ丘	62	6.2	
	赤法花	1	0.1	
	同地	3	0.3	
	中央	49	4.9	
	大柏	18	1.8	
	野木崎	14	1.4	
	立沢	40	4.0	
	御所ヶ丘	28	2.8	
	みずき野	28	2.8	
	小山	7	0.7	
	乙子	7	0.7	
	美園	14	1.4	
	高野	5	0.5	
	鈴塚	0	0.0	
	松ヶ丘	65	6.5	
	けやき台	53	5.3	
	ひがし野	87	8.7	
	松並青葉	268	26.9	
	その他	3	0.3	
	学校名	大井沢小学校	82	8.3
		大野小学校	31	3.1
高野小学校		39	3.9	
守谷小学校		146	14.7	
黒内小学校		402	40.5	
御所ヶ丘小学校		42	4.2	
郷州小学校		81	8.2	
松前台小学校		35	3.5	
松ヶ丘小学校		105	10.6	
私立の小学校		13	1.3	
その他		17	1.7	

2.学校の「規模」について

問. 児童生徒数や学級数が少なすぎる「小規模校」のデメリットとして、以下のような点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください（SA）

⇒『デメリットだと思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）』と回答した割合は、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」が85.0%で最も高く、次いで「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（84.9%）」、「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない（73.3%）」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる（56.4%）」の順となっている。

図表 30 小規模校のデメリットについて



小規模校のデメリットを点数化した平均値をみると、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」が3.354で最も高く、次いで、「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（3.348）」、「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない（3.06）」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる（2.73）」の順となっている。

平均値を属性別にみると、「大野小学校」での「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（3.55）」、「郷州小学校」での「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（3.53）」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる（2.89）」などが全体に比べ高くなっている。

図表 31 小規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

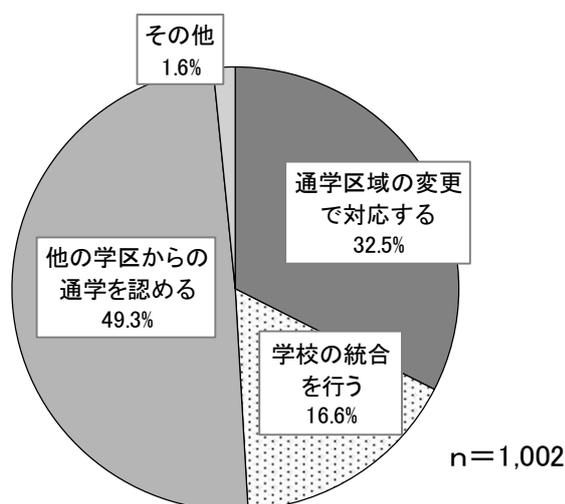
		件数	①クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい	②多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない	③人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる	④PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい
全体		1,002	3.35	3.06	2.73	3.35
学校名	大井沢小学校	82	3.34	3.06	2.71	3.44
	大野小学校	31	3.32	3.16	2.68	3.55
	高野小学校	39	3.44	3.10	2.85	3.49
	守谷小学校	145	3.34	3.14	2.79	3.39
	黒内小学校	402	3.36	3.02	2.68	3.30
	御所ヶ丘小学校	42	3.24	2.90	2.74	3.19
	郷州小学校	81	3.25	3.08	2.89	3.53
	松前台小学校	35	3.31	2.89	2.54	3.43
	松ヶ丘小学校	105	3.46	3.14	2.76	3.28
	私立の小学校	13	3.38	3.23	2.77	3.00
	その他	17	3.53	3.18	3.06	3.29

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 小規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒ 「他の学区からの通学を認める」が 49.3%と最も高く、次いで「通学区域の変更で対応する (32.5%)」、「学校の統合を行う (16.6%)」となっている。

図表 32 小規模校の対応策



属性別では、「御所ヶ丘小学校」での「他の学区からの通学を認める (71.4%)」、「松前台小学校」での「他の学区からの通学を認める (62.9%)」、「大井沢小学校」での「通学区域の変更で対応する (43.9%)」、「高野小学校」での「学校の統合を行う (28.2%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 33 小規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

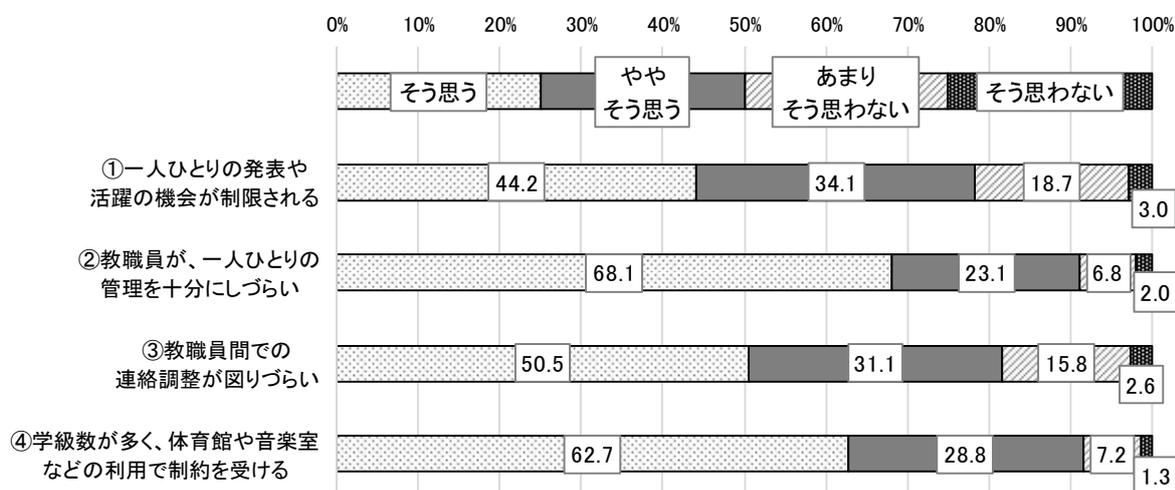
		件数	通学区域の変更 で対応する	学校の統合 を行う	他の学区からの 通学を認める	その他
全体		1,002	32.5	16.6	49.3	1.6
学校名	大井沢小学校	82	43.9	11.0	42.7	2.4
	大野小学校	31	35.5	12.9	51.6	0.0
	高野小学校	39	25.6	28.2	43.6	2.6
	守谷小学校	146	30.1	15.1	53.4	1.4
	黒内小学校	401	31.2	21.2	45.9	1.7
	御所ヶ丘小学校	42	21.4	7.1	71.4	0.0
	郷州小学校	81	38.3	13.6	46.9	1.2
	松前台小学校	35	28.6	8.6	62.9	0.0
	松ヶ丘小学校	105	35.2	12.4	50.5	1.9
	私立の小学校	13	30.8	15.4	53.8	0.0
	その他	17	29.4	11.8	52.9	5.9

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 児童生徒数や学級数が多すぎる「大規模校」のデメリットとして、以下のよう
な点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください
(SA)

⇒『デメリットだと思う(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)』と回答し
た割合は、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける」が
91.5%で最も高く、次いで「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい
(91.2%)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(81.6%)」、「一人ひとり
の発表や活躍の機会が制限される(78.3%)」の順となっている。

図表 34 大規模校のデメリットについて



大規模校のデメリットを点数化した平均値をみると、「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい」が 3.57 で最も高く、次いで、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける(3.53)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(3.30)」、「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.20)」の順となっている。

平均値を属性別にみると、「高野小学校」での「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.38)」、「大野小学校」での「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.37)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 35 大規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

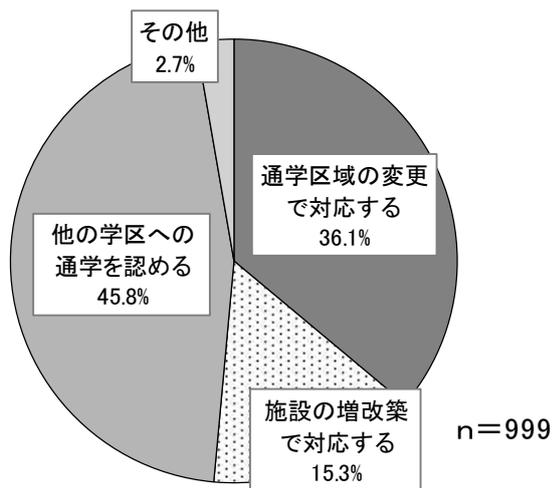
		件数	①一人ひとりの 発表や活躍の機会 が制限される	②教職員が、 一人ひとりの管理 を十分にしづらい	③教職員間での 連絡調整が 図りづらい	④学級数が多く、 体育館や音楽室 などの利用で 制約を受ける
全体		1,000	3.20	3.57	3.30	3.53
学校名	大井沢小学校	82	3.26	3.70	3.37	3.48
	大野小学校	30	3.37	3.57	3.13	3.37
	高野小学校	39	3.38	3.62	3.31	3.41
	守谷小学校	144	3.10	3.54	3.23	3.46
	黒内小学校	402	3.24	3.52	3.29	3.67
	御所ヶ丘小学校	42	3.07	3.64	3.36	3.29
	郷州小学校	81	3.11	3.68	3.20	3.36
	松前台小学校	35	2.91	3.46	3.26	3.43
	松ヶ丘小学校	105	3.09	3.59	3.30	3.46
	私立の小学校	13	3.69	3.92	3.69	3.69
	その他	17	3.41	3.65	3.53	3.59

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 大規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒「他の学区への通学を認める」が45.8%で最も高く、次いで「通学区域の変更で対応する(36.1%)」、「施設の増改築で対応する(15.3%)」となっている。

図表 36 大規模校の対応策



属性別では、「松前台小学校」での「他の学区への通学を認める(60.0%)」、「高野小学校」での「他の学区への通学を認める(56.4%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 37 大規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

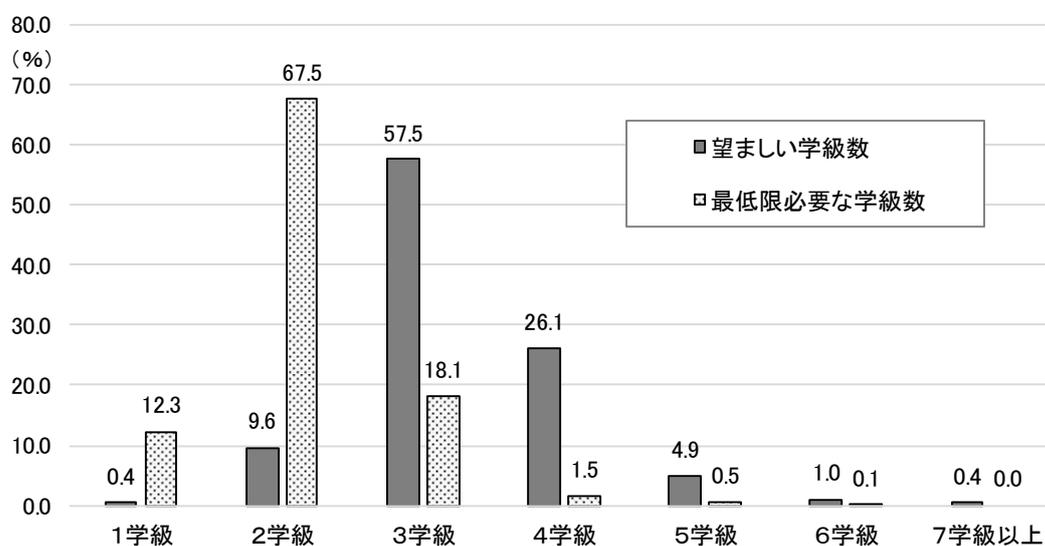
		件数	通学区域の変更 で対応する	施設の増改築 で対応する	他の学区への 通学を認める	その他
全体		999	36.1	15.3	45.8	2.7
学校名	大井沢小学校	80	42.5	15.0	42.5	0.0
	大野小学校	31	32.3	12.9	54.8	0.0
	高野小学校	39	30.8	10.3	56.4	2.6
	守谷小学校	146	37.0	16.4	45.2	1.4
	黒内小学校	400	37.0	16.8	41.0	5.3
	御所ヶ丘小学校	42	33.3	14.3	52.4	0.0
	郷州小学校	81	32.1	13.6	51.9	2.5
	松前台小学校	35	20.0	20.0	60.0	0.0
	松ヶ丘小学校	105	41.0	10.5	47.6	1.0
	私立の小学校	13	30.8	23.1	46.2	0.0
	その他	17	35.3	5.9	58.8	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 今後、少子化の進行により小規模な学校が増えることが予想されます。そうした状況も踏まえて、あなたが考える1学年当たりの「①望ましい学級数」、「②最低限必要な学級数」を、以下の選択肢の中からお選びください (SA)

⇒ 「望ましい学級数」では、「3学級 (57.5%)」、「4学級 (26.1%)」が高く、「最低限必要な学級数」では「2学級 (67.5%)」、「3学級 (18.1%)」が高い。

図表 38 望ましい学級数/最低限必要な学級数

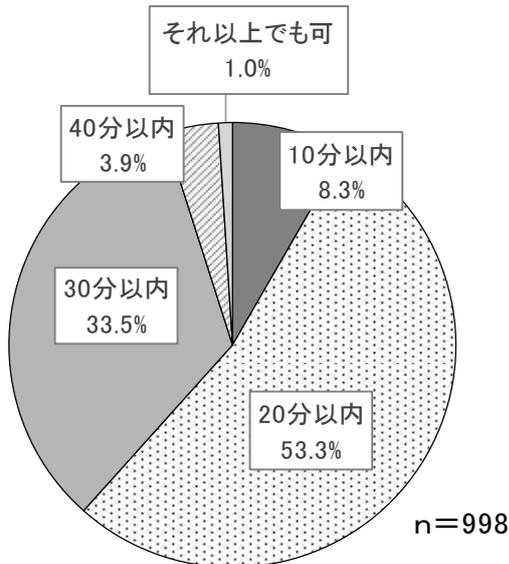


3.学校の「配置」等について

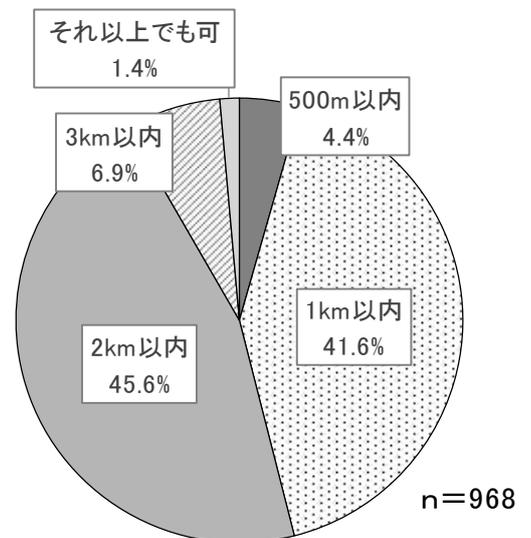
問. 学校によっては学区が広いため、現実的に通学時間・通学距離が長くなるケースも生じています。許容できる通学時間・通学距離は、どのくらいだと考えますか (MA)

⇒「許容できる通学時間」では、「20分以内」までが約6割(61.6%)、「許容できる通学距離」では、「2km以内」までが約9割(91.6%)となっている。

図表 39 許容できる通学時間



図表 40 許容できる通学距離



「許容できる通学時間」を属性別にみると、「高野小学校」での「30分以内(47.4%)」などが全体に比べ高くなっている。また、「許容できる通学距離」では、「大井沢小学校」での「2km以内(57.1%)」、「3km以内(18.2%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 41 許容できる通学時間・距離 (クロス集計)

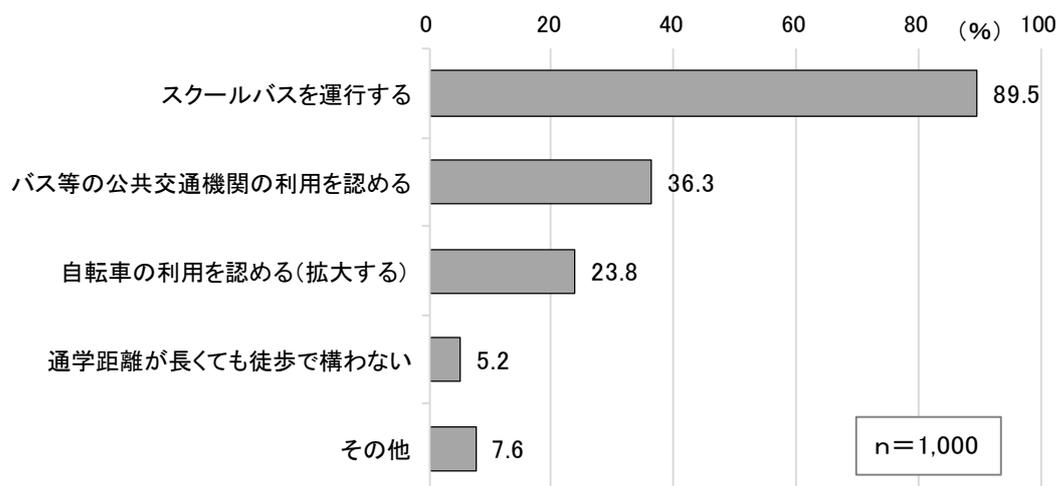
		許容できる通学時間					許容できる通学距離					
		件数	10分以内	20分以内	30分以内	40分以内	それ以上でも可	500m以内	1km以内	2km以内	3km以内	それ以上でも可
全体		-	8.3	53.3	33.5	3.9	1.0	4.4	41.6	45.6	6.9	1.4
学校名	大井沢小学校	81	7.4	44.4	39.5	8.6	0.0	0.0	24.7	57.1	18.2	0.0
	大野小学校	31	9.7	61.3	25.8	3.2	0.0	0.0	46.7	46.7	6.7	0.0
	高野小学校	38	5.3	42.1	47.4	5.3	0.0	5.3	36.8	50.0	5.3	2.6
	守谷小学校	146	6.8	53.4	37.0	2.7	0.0	4.3	42.6	46.1	5.7	1.4
	黒内小学校	400	6.3	57.3	31.0	4.0	1.5	4.6	42.3	45.9	5.6	1.5
	御所ヶ丘小学校	42	9.5	59.5	31.0	0.0	0.0	4.9	46.3	43.9	4.9	0.0
	郷州小学校	80	11.3	50.0	35.0	2.5	1.3	5.4	39.2	43.2	8.1	4.1
	松前台小学校	35	11.4	54.3	28.6	5.7	0.0	6.1	48.5	36.4	9.1	0.0
	松ヶ丘小学校	105	11.4	50.5	37.1	1.0	0.0	2.9	51.5	43.7	1.9	0.0
	私立の小学校	13	0.0	46.2	30.8	7.7	15.4	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7
	その他	17	23.5	41.2	17.6	17.6	0.0	23.5	23.5	35.3	17.6	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 通学距離が長く、許容できる通学時間を超える児童生徒がいる場合、どのような配慮が必要だと考えますか (MA)

⇒「スクールバスを運行する」が 89.5%で最も高く、次いで「バス等の公共交通機関の利用を認める (36.3%)」、「自転車の利用を認める[拡大する] (23.8%)」となっている。

図表 42 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (MA)



属性別では、「大井沢小学校」での「バス等の公共交通機関の利用を認める (54.3%)」、「松前台小学校」での「バス等の公共交通機関の利用を認める (54.3%)」、「御所ヶ丘小学校」での「自転車の利用を認める[拡大する] (40.5%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 43 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (クロス集計)

(単位: %)

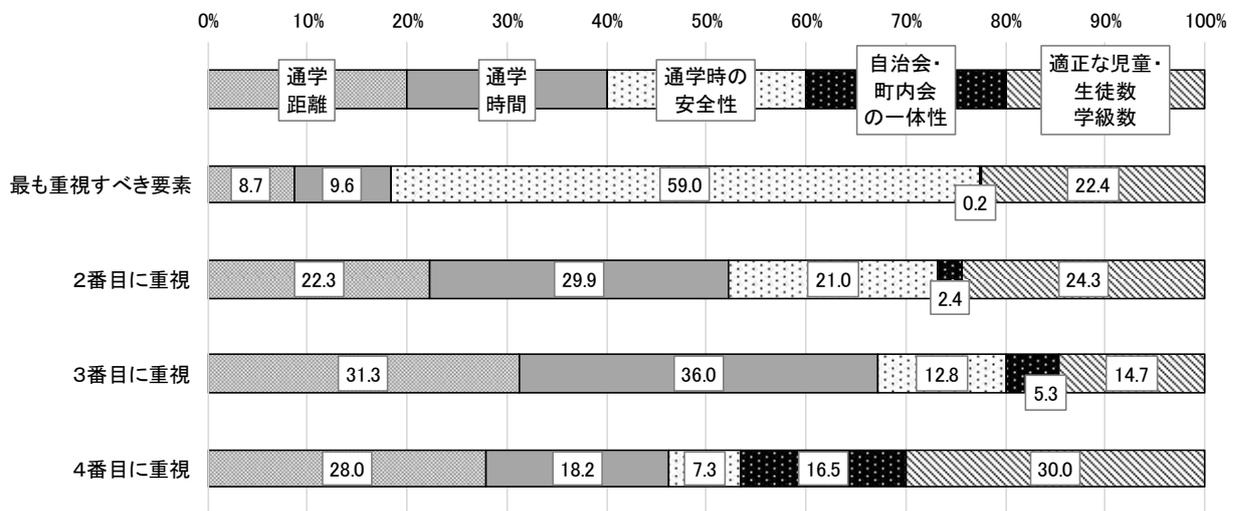
		件数	スクールバスを運行する	バス等の公共交通機関の利用を認める	自転車の利用を認める(拡大する)	通学距離が長くても徒歩で構わない
全体		1,000	89.5	36.3	23.8	5.2
学校名	大井沢小学校	81	88.9	54.3	22.2	3.7
	大野小学校	30	90.0	43.3	10.0	3.3
	高野小学校	39	89.7	23.1	28.2	7.7
	守谷小学校	146	89.0	38.4	28.1	4.1
	黒内小学校	401	93.8	29.9	21.9	5.5
	御所ヶ丘小学校	42	83.3	42.9	40.5	2.4
	郷州小学校	81	87.7	39.5	30.9	2.5
	松前台小学校	35	82.9	54.3	22.9	5.7
	松ヶ丘小学校	105	80.0	32.4	21.0	10.5
	私立の小学校	13	100.0	38.5	7.7	0.0
	その他	17	82.4	41.2	17.6	5.9

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 学校の適正配置・学区の設定を検討するうえでは「①通学距離」、「②通学時間」、「③通学時の安全性」、「④自治会・町内会の一体性」、「⑤適正な児童・生徒数、学級数」などの要素を考慮していく必要があります。①～⑤のなかで、あなたが最も重視すべきと考える要素、2番目、3番目、4番目に重視すべきと考える要素をお答えください。

⇒最も重視すべき要素では、「通学時の安全性」が 59.0%と最も高く、次いで、「適正な児童・生徒数、学級数 (22.4%)」、「通学時間 (9.6%)」の順となっている。

図表 44 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素



学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素を点数化した平均値をみると、「通学時の安全」が 3.32 で最も高く、「適正な児童・生徒数、学級数」が 2.43、「通学時間」が 2.33、「通学距離」が 2.13、「自治会・町内会の一体性」が 1.44 となっている。

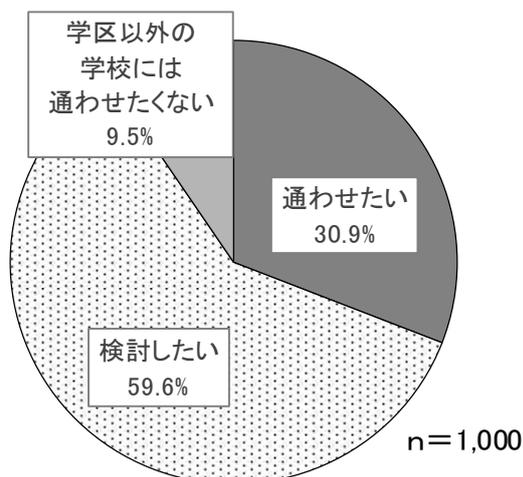
図表 45 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素（点数化）

通学距離	通学時間	通学時の安全性	自治会・町内会の一体性	適正な児童・生徒数、学級数
2.13	2.33	3.32	1.44	2.43

問. 仮に、お子さまの学校の学区以外の場所に、特別な教育に特化した公立の小中学校が設置された場合、お子さまを通わせたいと考えますか (MA)

⇒ 「通わせたい」が30.9%、「検討したい」が59.6%となっている。

図表 46 特別な教育に特化した公立の小中学校への通学意向



属性別にみると、「御所ヶ丘小学校」での「学区以外の学校には通わせたくない (23.8%)」、「大野小学校」での「学区以外の学校には通わせたくない (16.1%)」などで全体に比べ高くなっている。

図表 47 特別な教育に特化した公立の小中学校への通学意向 (クロス集計)

(単位: %)

		件数	通わせたい	検討したい	学区以外の学校には通わせたくない
全体		1,000	30.9	59.6	9.5
学校名	大井沢小学校	82	22.0	62.2	15.9
	大野小学校	31	19.4	64.5	16.1
	高野小学校	39	28.2	61.5	10.3
	守谷小学校	145	34.5	57.9	7.6
	黒内小学校	400	35.3	58.0	6.8
	御所ヶ丘小学校	42	21.4	54.8	23.8
	郷州小学校	81	29.6	59.3	11.1
	松前台小学校	35	22.9	71.4	5.7
	松ヶ丘小学校	105	27.6	59.0	13.3
	私立の小学校	13	23.1	76.9	0.0
	その他	17	35.3	64.7	0.0

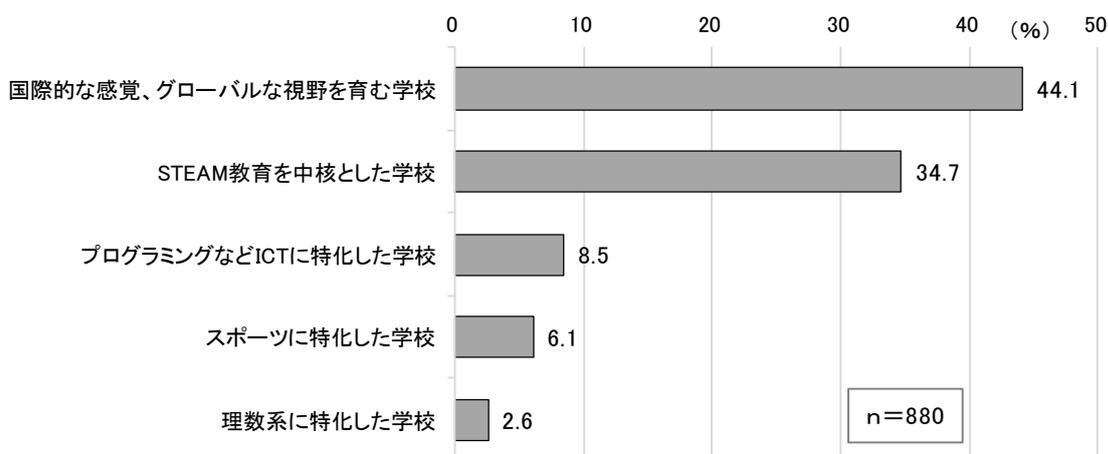
※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. どのような学校なら通わせたいですか (MA)

※対象：前問で『通わせたい』、『検討したい』と回答した人のみ

⇒「国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校」が 44.1%で最も高く、次いで「STEAM 教育を中核とした学校 (34.7%)」、「プログラミングなど ICT に特化した学校 (8.5%)」となっている。

図表 48 通わせたい学校



属性別では、「御所ヶ丘小学校」での「スポーツに特化した学校 (16.1%)」、「郷州小学校」での「プログラミングなど ICT に特化した学校 (16.9%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 49 通わせたい学校 (クロス集計)

(単位: %)

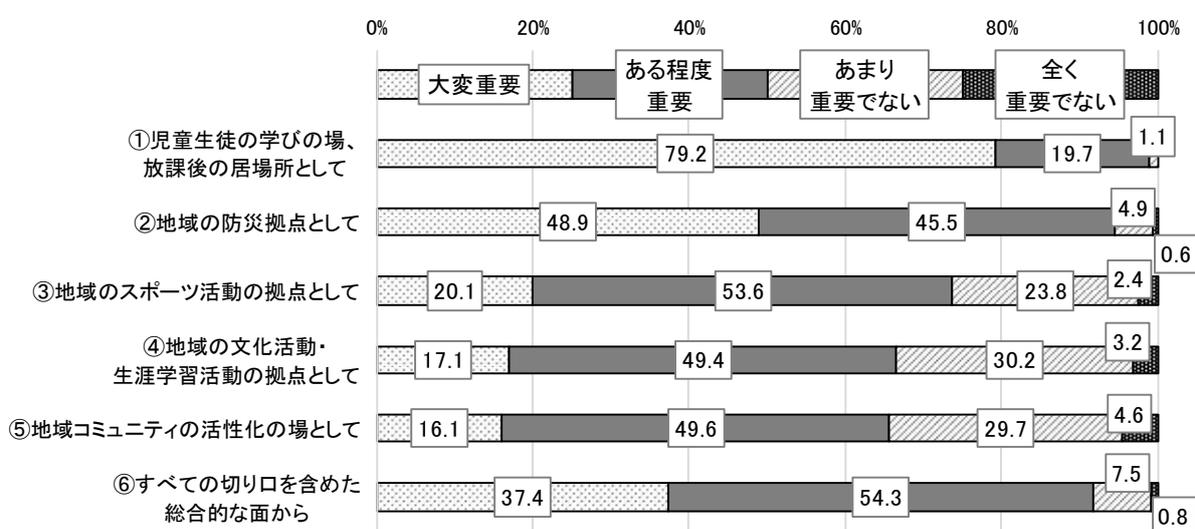
		件数	国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校	理数系に特化した学校	プログラミングなどICTに特化した学校	スポーツに特化した学校	STEAM教育を中核とした学校
全体		880	44.1	2.6	8.5	6.1	34.7
学校名	大井沢小学校	66	50.0	0.0	10.6	10.6	28.8
	大野小学校	25	44.0	0.0	12.0	8.0	32.0
	高野小学校	35	48.6	0.0	5.7	8.6	34.3
	守谷小学校	131	43.5	0.8	11.5	3.8	37.4
	黒内小学校	362	41.7	4.4	6.9	5.0	37.6
	御所ヶ丘小学校	31	51.6	0.0	3.2	16.1	29.0
	郷州小学校	71	46.5	4.2	16.9	8.5	19.7
	松前台小学校	32	37.5	0.0	12.5	6.3	37.5
	松ヶ丘小学校	89	44.9	2.2	5.6	5.6	34.8
	私立の小学校	13	46.2	0.0	0.0	0.0	53.8
	その他	16	50.0	6.3	0.0	6.3	37.5

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. あなたは下記の視点から、地域における学校の役割は、今後どの程度重要だと考えますか (SA)

⇒『重要だと考える(「大変重要」と「ある程度重要」の合計)』と回答した割合は、「児童生徒の学びの場、放課後の居場所として」が98.9%で最も高く、次いで「地域の防災拠点として(94.4%)」、「すべての切り口を含めた総合的な面から(91.7%)」、「地域のスポーツ活動の拠点として(73.7%)」の順となっている。

図表 50 地域における学校の役割



学校の役割における重要度を点数化した平均値をみると、「児童生徒の学びの場、放課後の居場所として」が3.78で最も高く、次いで「地域の防災拠点として」が3.43、「すべての切り口を含めた総合的な面から」が3.28、「地域のスポーツ活動の拠点として」が2.91の順となっている。

図表 51 地域における学校の役割 (点数化)

児童生徒の学びの場、放課後の居場所として	地域の防災拠点として	地域のスポーツ活動の拠点として	地域の文化活動・生涯学習活動の拠点として	地域コミュニティの活性化の場として	すべての切り口を含めた総合的な面から
3.78	3.43	2.91	2.80	2.77	3.28

Ⅲ. 一般市民向けアンケート調査

●調査方法

- ・調査対象 : 2,000 件
- ・回収数 : 718 件 (紙アンケート: 621 件、WEB 回答: 97 件)
- ・調査方法 : 紙アンケートの調査票の配布および WEB フォーマットへの回答により回収
- ・調査時期 : 令和 5 年 6 ~ 7 月

●調査結果の見方

(1) 本文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。

- ・「SA」(Single Answer): 単一回答形式 (選択肢の中から 1 つを選択してもらう設問)
- ・「MA」(Multiple Answer): 複数回答形式 (選択肢の中から複数を選択してもらう設問)

(2) 集計結果の比率は、各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してある。その結果として「SA」(単一回答形式) では、この比率の合計が 100%にならないこともある。

(3) 「MA」(複数回答形式) では回答者が複数の選択肢を選択するため、百分比 (%) の合計は、一般的に 100%を上回る。

(4) 見やすさに配慮するため、本文中のグラフ・表中の選択肢標記の語句の簡略化を行っている。

1.あなた自身について

回答者の基本属性は以下の通り。

図表 52 基本属性

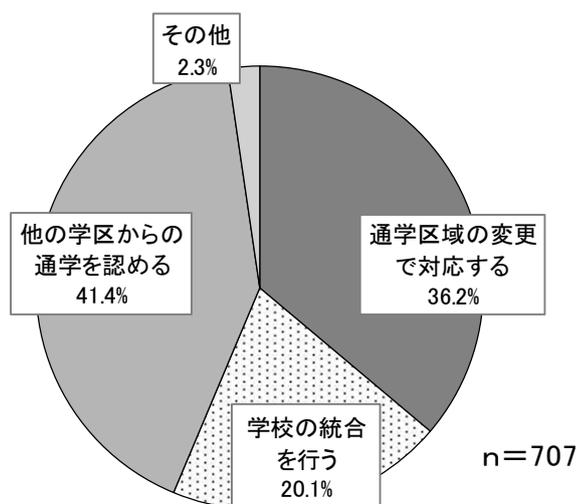
		件数	構成比(%)
居住地	板戸井	11	1.5
	松前台	59	8.3
	大山新田	1	0.1
	久保ヶ丘	44	6.2
	薬師台	49	6.9
	緑	0	0.0
	大木	7	1.0
	松並	12	1.7
	本町	72	10.1
	百合ヶ丘	56	7.9
	赤法花	0	0.0
	同地	2	0.3
	中央	25	3.5
	大柏	16	2.2
	野木崎	11	1.5
	立沢	10	1.4
	御所ヶ丘	39	5.5
	みずき野	72	10.1
	小山	3	0.4
	乙子	4	0.6
	美園	34	4.8
	高野	14	2.0
	鈴塚	1	0.1
	松ヶ丘	65	9.1
	けやき台	49	6.9
	ひがし野	35	4.9
松並青葉	21	2.9	
その他	1	0.1	
年齢	20歳代	45	6.3
	30歳代	74	10.3
	40歳代	63	8.8
	50歳代	153	21.4
	60歳代	139	19.4
	70歳以上	242	33.8
中学生以下の 子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	6.6
	小学生の子どもがいる	11	1.8
	中学生の子どもがいる	8	1.3
	中学生以下の子どもはいない	568	91.0

2.学校の「規模」について

問. 小規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒ 「他の学区からの通学を認める」が 41.4%と最も高く、次いで「通学区域の変更で対応する (36.2%)」、「学校の統合を行う (20.1%)」となっている。

図表 53 小規模校の対応策



属性別では、「20歳代」での「他の学区からの通学を認める (51.1%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 54 小規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

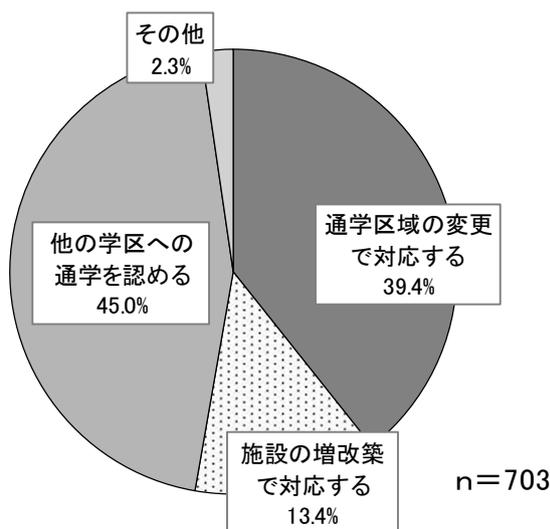
		件数	通学区域の変更 で対応する	学校の統合 を行う	他の学区からの 通学を認める	その他
全体		707	36.2	20.1	41.4	2.3
年齢	20歳代	45	31.1	17.8	51.1	0.0
	30歳代	74	35.1	21.6	41.9	1.4
	40歳代	62	37.1	17.7	41.9	3.2
	50歳代	151	39.7	15.2	44.4	0.7
	60歳代	137	30.7	23.4	42.3	3.6
	70歳以上	236	38.6	22.0	36.4	3.0
子どもの有無	小学校入学前の子がいる	41	36.6	22.0	41.5	0.0
	小学生の子がいる	11	54.5	0.0	45.5	0.0
	中学生の子がいる	8	50.0	25.0	12.5	12.5
	中学生以下の子はいない	560	34.8	20.0	42.5	2.7

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 大規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒「他の学区への通学を認める」が45.0%で最も高く、次いで「通学区域の変更で対応する(39.4%)」、「施設の増改築で対応する(13.4%)」となっている。

図表 55 大規模校の対応策



属性別では、「20歳代」および「30歳代」での「施設の増改築で対応する(20歳代:28.9%、30歳代:25.7%)」、「小学校入学前の子どもがいる」での「施設の増改築で対応する(41.5%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 56 大規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

		件数	通学区域の変更 で対応する	施設の増改築 で対応する	他の学区への 通学を認める	その他
全体		703	39.4	13.4	45.0	2.3
年齢	20歳代	45	33.3	28.9	37.8	0.0
	30歳代	74	29.7	25.7	41.9	2.7
	40歳代	62	45.2	9.7	43.5	1.6
	50歳代	152	40.8	9.2	47.4	2.6
	60歳代	135	41.5	9.6	45.9	3.0
	70歳以上	233	40.3	12.4	45.1	2.1
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	17.1	41.5	39.0	2.4
	小学生の子どもがいる	11	27.3	18.2	54.5	0.0
	中学生の子どもがいる	8	50.0	12.5	25.0	12.5
	中学生以下の子どもはいない	558	40.5	12.4	44.8	2.3

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

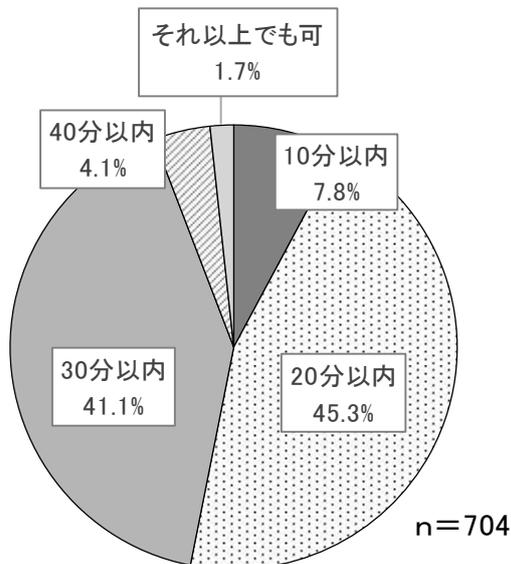
3.学校の「配置」について

問. 小学生及び中学生が許容できる通学時間・通学距離は、どのくらいだと考えますか (SA)

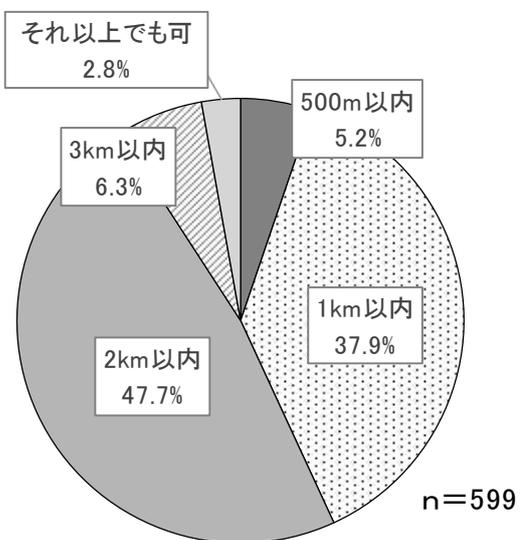
⇒「許容できる通学時間」は、小学生では「20分以内」までが約5割(53.1%)、中学生では「30分以内」までが約6割(64.8%)となっている。

「許容できる通学距離」では、小学生では「2km以内」までが約9割(90.8%)、中学生では「3km以内」までが8割(79.8%)となっている。

図表 57 許容できる通学時間 (小学生)



図表 58 許容できる通学距離 (小学生)



「小学生が許容できる通学時間」を属性別にみると、「30歳代」での「20分以内(54.8%)」、「40歳代」での「30分以内(46.8%)」などが全体に比べ高くなっている。

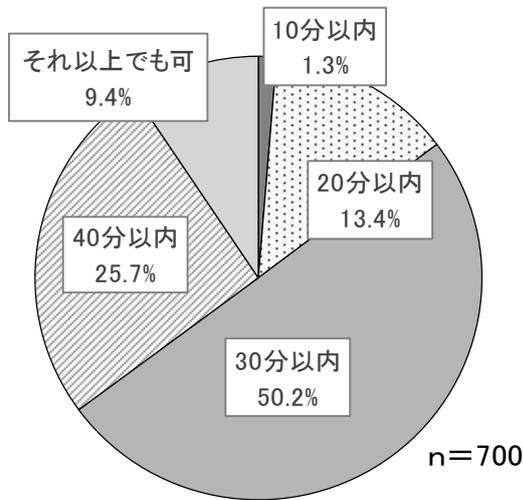
図表 59 許容できる通学時間・距離 (クロス集計)

(単位: %)

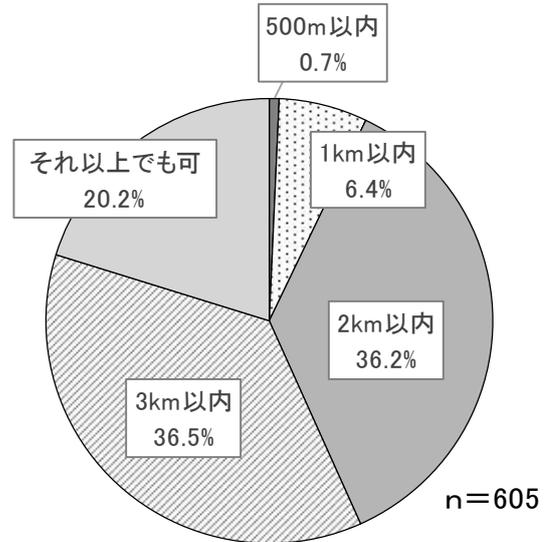
		件数	許容できる通学時間					許容できる通学距離				
			10分以内	20分以内	30分以内	40分以内	それ以上でも可	500m以内	1km以内	2km以内	3km以内	それ以上でも可
全体		-	7.8	45.3	41.1	4.1	1.7	5.2	37.9	47.7	6.3	2.8
年齢	20歳代	45	6.7	48.9	40.0	4.4	0.0	4.8	47.6	42.9	4.8	0.0
	30歳代	73	9.6	54.8	28.8	6.8	0.0	7.1	44.3	40.0	7.1	1.4
	40歳代	62	8.1	32.3	46.8	8.1	4.8	7.0	22.8	52.6	8.8	8.8
	50歳代	151	6.6	46.4	39.7	4.0	3.3	2.4	40.8	45.6	5.6	5.6
	60歳代	139	6.5	46.0	43.9	2.9	0.7	3.5	38.9	51.3	4.4	1.8
	70歳以上	232	9.1	44.4	42.7	2.6	1.3	6.8	35.6	49.2	7.3	1.0
	子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	14.6	63.4	17.1	4.9	0.0	10.0	52.5	32.5	2.5
小学生の子どもがいる		11	18.2	27.3	54.5	0.0	0.0	12.5	0.0	75.0	12.5	0.0
中学生の子どもがいる		8	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0
中学生以下の子どもはいない		559	7.9	43.6	42.2	4.5	1.8	4.6	36.3	49.5	6.5	3.1

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

図表 60 許容できる通学時間（中学生）



図表 61 許容できる通学距離（中学生）



「中学生が許容できる通学時間」を属性別にみると、「20歳代」での「30分以内（62.2%）」、「小学校入学前の子どもがいる」での「20分以内（31.7%）」などが全体に比べ高くなっている。

図表 62 許容できる通学時間・距離（クロス集計）

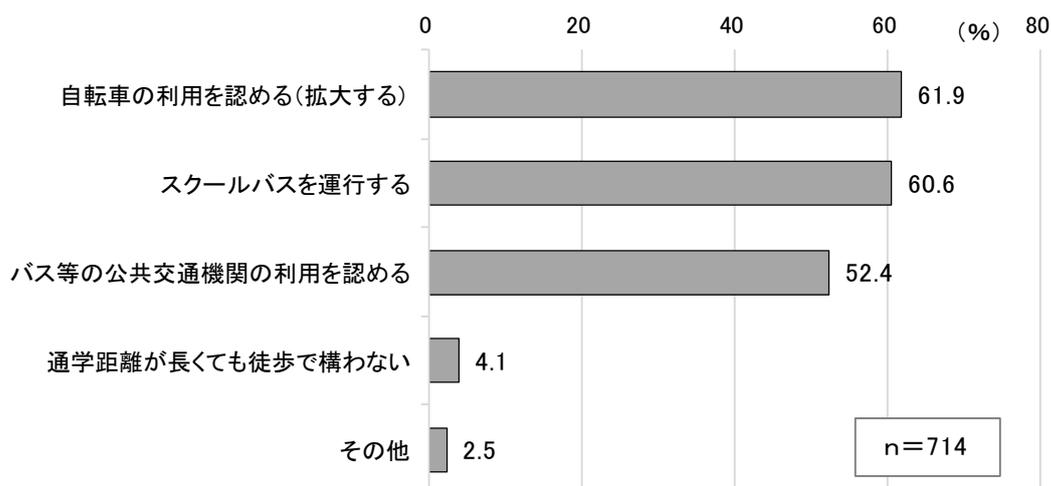
		件数	許容できる通学時間					許容できる通学距離				
			10分以内	20分以内	30分以内	40分以内	それ以上でも可	500m以内	1km以内	2km以内	3km以内	それ以上でも可
全体		-	1.3	13.4	50.1	25.7	9.4	0.7	6.4	36.2	36.5	20.2
年齢	20歳代	45	6.7	17.8	62.2	13.3	0.0	2.4	11.9	42.9	31.0	11.9
	30歳代	73	0.0	20.5	50.7	20.5	8.2	0.0	5.7	37.1	35.7	21.4
	40歳代	62	3.2	14.5	41.9	27.4	12.9	3.5	5.3	22.8	38.6	29.8
	50歳代	150	2.7	11.3	50.7	22.7	12.7	0.0	4.8	37.1	34.7	23.4
	60歳代	137	0.0	9.5	55.5	24.8	10.2	0.0	7.0	38.3	37.4	17.4
	70歳以上	231	0.0	13.9	46.8	31.2	8.2	0.5	6.6	36.7	37.8	18.4
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	0.0	31.7	56.1	9.8	2.4	0.0	10.0	50.0	32.5	7.5
	小学生の子どもがいる	9	0.0	11.1	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	28.6	71.4	0.0
	中学生の子どもがいる	8	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	28.6	71.4	0.0
	中学生以下の子どもはいない	557	1.6	12.7	48.5	26.6	10.6	0.6	6.3	34.4	36.0	22.7

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 通学距離が長く、許容できる通学時間を超える児童生徒がいる場合、どのような配慮が必要だと考えますか (MA)

⇒「自転車の利用を認める(拡大する)」が61.9%で最も高く、次いで「スクールバスを運行する(60.6%)」、「バス等の公共交通機関の利用を認める(52.4%)」となっている。

図表 63 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (MA)



属性別では、「小学校入学前の子どもがいる」での「スクールバスを運行する(80.5%)」、「30歳代」での「スクールバスを運行する(78.4%)」、「20歳代」での「バス等の公共交通の利用を認める(71.1%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 64 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (クロス集計)

(単位: %)

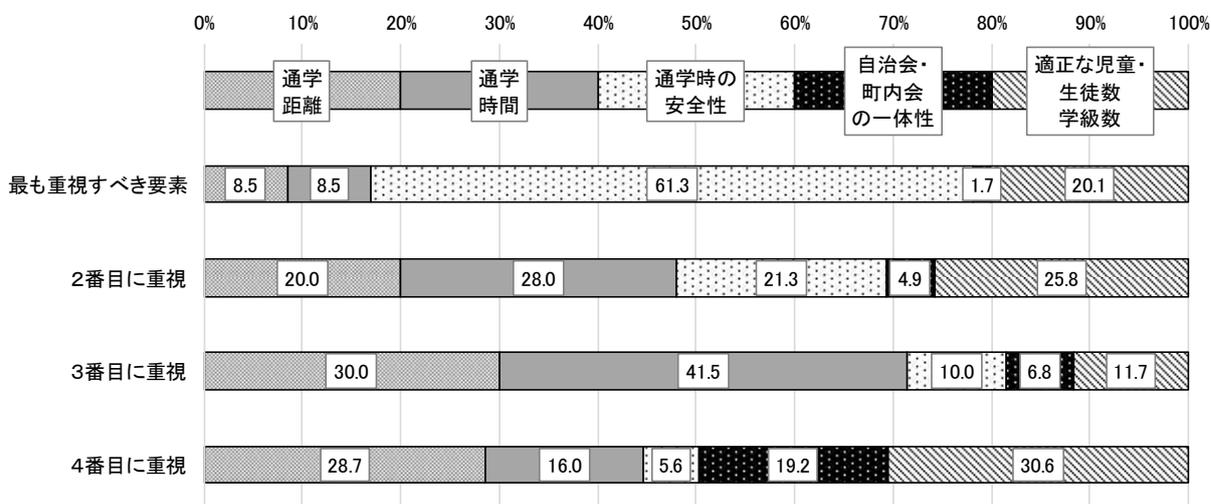
		件数	スクールバスを運行する	バス等の公共交通機関の利用を認める	自転車の利用を認める(拡大する)	通学距離が長くても徒歩で構わない
全体		714	60.6	52.4	61.9	4.1
年齢	20歳代	45	62.2	71.1	64.4	4.4
	30歳代	74	78.4	59.5	70.3	2.7
	40歳代	63	68.3	57.1	66.7	1.6
	50歳代	153	59.5	57.5	63.4	3.3
	60歳代	139	57.6	46.8	54.0	2.9
	70歳以上	238	55.5	45.4	61.3	6.3
	子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	80.5	53.7	70.7
小学生の子どもがいる		10	60.0	50.0	40.0	0.0
中学生の子どもがいる		8	50.0	37.5	75.0	0.0
中学生以下の子どもはいない		565	60.9	52.2	63.4	4.2

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 学校の適正配置・学区の設定を検討するうえでは「①通学距離」、「②通学時間」、「③通学時の安全性」、「④自治会・町内会の一体性」、「⑤適正な児童・生徒数、学級数」などの要素を考慮していく必要があります。①～⑤のなかで、あなたが最も重視すべきと考える要素、2番目、3番目、4番目に重視すべきと考える要素をお答えください。

⇒最も重視すべき要素では、「通学時の安全性」が 61.3%と最も高く、次いで、「適正な児童・生徒数、学級数 (20.1%)」、「通学距離 (8.5%)」、「通学時間 (8.5%)」の順となっている。

図表 65 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素



学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素を点数化した平均値をみると、「通学時の安全」が 3.41 で最も高く、「適正な児童・生徒数、学級数」が 2.41、「通学時間」が 2.31、「通学距離」が 2.10、「自治会・町内会の一体性」が 1.67 となっている。

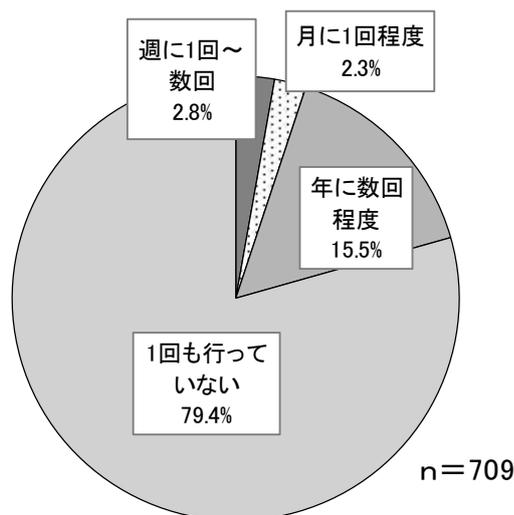
図表 66 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素（点数化）

通学距離	通学時間	通学時の安全性	自治会・町内会の一体性	適正な児童・生徒数、学級数
2.10	2.31	3.41	1.67	2.41

4.その他学校に関することについて

問. あなたは、最近1年間に、地域の小中学校にどのくらいの頻度で行きましたか(SA)
 ⇒ 「1回も行っていない」が約8割(79.4%)となっている。

図表 67 地域の小中学校への訪問頻度



属性別では、「20歳代」および「30歳代」での「1回も行っていない(20歳代:93.3%、30歳代:85.1%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 68 地域の小中学校への訪問頻度(クロス集計)

(単位: %)

		件数	週に1回~数回	月に1回程度	年に数回程度	1回も行っていない
全体		709	2.8	2.3	15.5	79.4
年齢	20歳代	45	2.2	0.0	4.4	93.3
	30歳代	74	1.4	2.7	10.8	85.1
	40歳代	63	1.6	1.6	17.5	79.4
	50歳代	153	2.6	1.3	14.4	81.7
	60歳代	135	6.7	1.5	14.8	77.0
	70歳以上	237	1.7	3.8	19.0	75.5
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	2.4	0.0	14.6	82.9
	小学生の子どもがいる	10	20.0	10.0	50.0	20.0
	中学生の子どもがいる	7	0.0	14.3	57.1	28.6
	中学生以下の子どもはいない	564	2.3	2.1	14.7	80.9

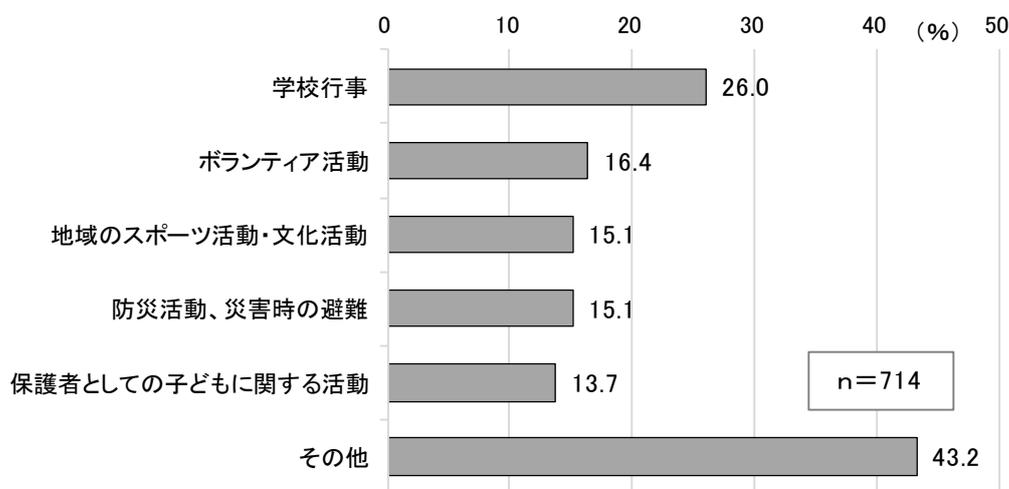
※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. あなたは、どのような目的で学校に行きましたか (MA)

※対象：前問で『週に1回～数回』、『月に1回程度』、『年に数回程度』と回答した人のみ

⇒「学校行事」が26.0%で最も高く、次いで「ボランティア活動(16.4%)」、「地域のスポーツ活動・文化活動(15.1%)」、「防災活動、災害時の避難(15.1)%」となっている。

図表 69 小中学校の訪問目的 (MA)



※「その他」は、「選挙：18.5%」、「仕事（教員を含む）：3.4%」、「送迎：4.1%」等

属性別では、「40歳代」での「保護者としての子どもに関する活動(53.8%)」、「学校行事(53.8%)」などが全体に比べ高くなっている。

図表 70 小中学校の訪問目的 (クロス集計)

(単位: %)

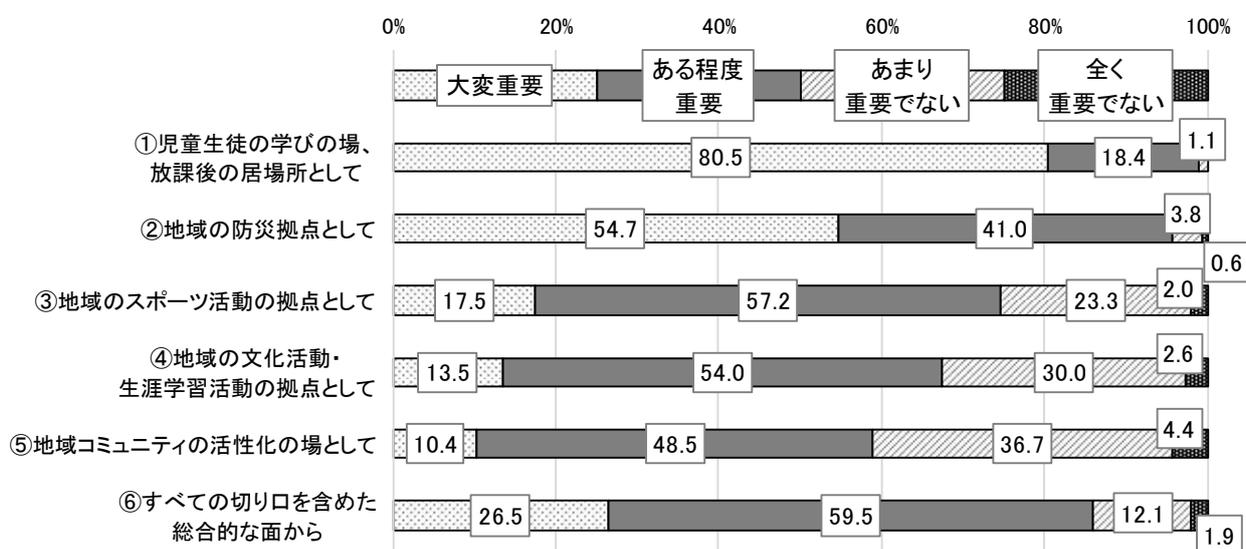
		件数	保護者としての子どもに関する活動	学校行事	ボランティア活動	地域のスポーツ活動・文化活動	防災活動、災害時の避難	その他
全体		146	13.7	26.0	16.4	15.1	15.1	43.2
年齢	20歳代	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7
	30歳代	11	18.2	18.2	0.0	27.3	0.0	63.6
	40歳代	13	53.8	53.8	0.0	15.4	0.0	15.4
	50歳代	28	25.0	25.0	14.3	7.1	14.3	46.4
	60歳代	31	6.5	16.1	12.9	12.9	6.5	54.8
	70歳以上	58	3.4	27.6	25.9	15.5	25.9	37.9
	子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
小学生の子どもがいる		8	50.0	37.5	12.5	37.5	0.0	12.5
中学生の子どもがいる		5	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
中学生以下の子どもはいない		108	12.0	26.9	13.9	14.8	17.6	45.4

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. あなたは下記の視点から、地域における学校の役割は、今後どの程度重要だと考えますか (SA)

⇒『重要だと考える(「大変重要」と「ある程度重要」の合計)』と回答した割合は、「児童生徒の学びの場、放課後の居場所として」が98.9%で最も高く、次いで「地域の防災拠点として(95.7%)」、「すべての切り口を含めた総合的な面から(86.0%)」、「地域のスポーツ活動の拠点として(74.7%)」の順となっている。

図表 71 地域における学校の役割



学校の役割における重要度を点数化した平均値をみると、「児童生徒の学びの場、放課後の居場所として」が3.79で最も高く、次いで「地域の防災拠点として」が3.50、「すべての切り口を含めた総合的な面から」が3.11、「地域のスポーツ活動の拠点として」が2.90の順となっている。

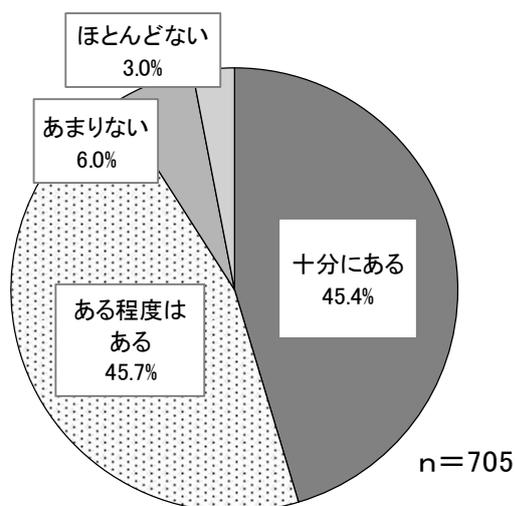
図表 72 地域における学校の役割 (点数化)

児童生徒の学びの場、放課後の居場所として	地域の防災拠点として	地域のスポーツ活動の拠点として	地域の文化活動・生涯学習活動の拠点として	地域コミュニティの活性化の場として	すべての切り口を含めた総合的な面から
3.79	3.50	2.90	2.78	2.65	3.11

問. 仮に、市内に「特別な教育に特化した公立の小中学校（例：国際的な感覚、グローバルな視野を育む学校、プログラミングなど ICT に特化した学校、スポーツに特化した学校）」が設置された場合、「学区に関わらずにその学校へ通わせたい」という保護者のニーズはあると考えますか（SA）

⇒『ある（「十分にある」と「ある程度はある」の合計）』との回答が、9割超（91.1%）となっている。

図表 73 特別な教育に特化した学校への保護者ニーズ



属性別にみると、「十分にある」は「30歳代から50歳代」で、「ある程度はある」は「60歳代以上」で全体に比べ高くなっている。

図表 74 特別な教育に特化した学校への保護者ニーズ

(単位: %)

		件数	十分にある	ある程度はある	あまりない	ほとんどない
全体		705	45.4	45.7	6.0	3.0
年齢	20歳代	44	47.7	45.5	6.8	0.0
	30歳代	74	52.7	39.2	8.1	0.0
	40歳代	63	52.4	31.7	7.9	7.9
	50歳代	153	53.6	41.2	2.6	2.6
	60歳代	136	41.9	51.5	4.4	2.2
	70歳以上	233	37.3	51.1	7.7	3.9
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	41	61.0	31.7	7.3	0.0
	小学生の子どもがいる	10	20.0	80.0	0.0	0.0
	中学生の子どもがいる	7	57.1	42.9	0.0	0.0
	中学生以下の子どもはいない	560	44.6	46.1	6.1	3.2

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

IV. 教職員アンケート調査

●調査方法

- ・調査対象 : 394 件 (←R5.8.15 追記)
- ・回収数 : 239 件 (WEB 回答 : 239 件)
- ・調査方法 : WEB フォーマットへの回答により回収
- ・調査時期 : 令和 5 年 6 ~ 7 月 (←その通り)

●調査結果の見方

- (1) 本文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。
 - ・「SA」(Single Answer) : 単一回答形式 (選択肢の中から 1 つを選択してもらう設問)
 - ・「MA」(Multiple Answer) : 複数回答形式 (選択肢の中から複数を選択してもらう設問)
- (2) 集計結果の比率は、各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してある。その結果として「SA」(単一回答形式) では、この比率の合計が 100%にならないこともある。
- (3) 「MA」(複数回答形式) では回答者が複数の選択肢を選択するため、百分比 (%) の合計は、一般的に 100%を上回る。
- (4) 見やすさに配慮するため、本文中のグラフ・表中の選択肢標記の語句の簡略化を行っている。

1.あなた自身について

回答者の所属する学校名は以下の通り。

図表 75 学校名

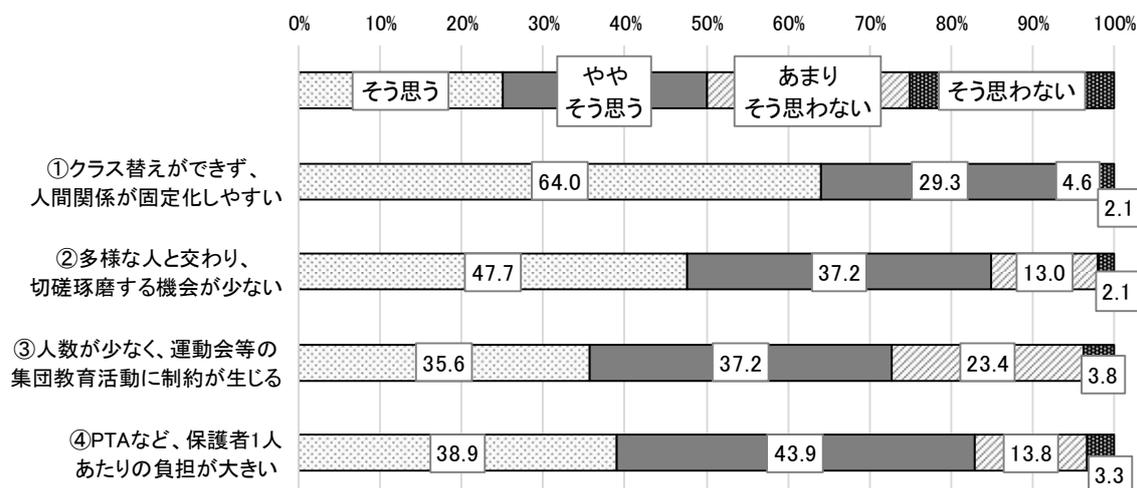
学校名	件数	構成比(%)
大井沢小学校	20	8.4
大野小学校	13	5.4
高野小学校	13	5.4
守谷小学校	31	13.0
黒内小学校	41	17.2
御所ヶ丘小学校	19	7.9
郷州小学校	19	7.9
松前台小学校	20	8.4
松ヶ丘小学校	2	0.8
守谷中学校	7	2.9
愛宕中学校	15	6.3
御所ヶ丘中学校	27	11.3
けやき台中学校	12	5.0

2.学校の「規模」について

問. 児童生徒数や学級数が少なすぎる「小規模校」のデメリットとして、以下のような点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください（SA）

⇒『デメリットだと思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）』と回答した割合は、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」が93.3%で最も高く、次いで「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない（84.9%）」、「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（82.8%）」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる（72.8%）」の順となっている。

図表 76 小規模校のデメリットについて



小規模校のデメリットを点数化した平均値をみると、「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」が3.55で最も高く、次いで「多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない（3.31）」、「PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい（3.18）」、「人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる（3.05）」の順となっている。

図表 77 小規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

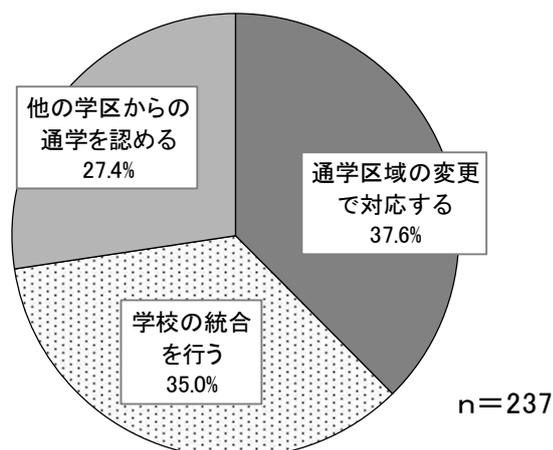
		件数	①クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい	②多様な人と交わり、切磋琢磨する機会が少ない	③人数が少なく、運動会等の集団教育活動に制約が生じる	④PTAなど、保護者1人あたりの負担が大きい
全体		239	3.55	3.31	3.05	3.18
学校名	大井沢小学校	20	3.80	3.50	2.95	3.25
	大野小学校	13	3.92	3.54	3.08	3.08
	高野小学校	13	3.92	3.54	3.15	3.23
	守谷小学校	31	3.45	3.13	2.81	3.19
	黒内小学校	41	3.44	3.27	2.88	3.22
	御所ヶ丘小学校	19	3.32	3.11	3.16	3.26
	郷州小学校	19	3.58	3.05	2.79	2.89
	松前台小学校	20	3.60	3.10	2.95	3.00
	松ヶ丘小学校	2	4.00	4.00	3.50	3.50
	守谷中学校	7	3.43	3.29	3.00	3.43
	愛宕中学校	15	3.33	3.47	3.33	3.33
	御所ヶ丘中学校	27	3.52	3.44	3.33	3.15
	けやき台中学校	12	3.58	3.50	3.58	3.33

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 小規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒ 「通学区域の変更で対応する」が 37.6%と最も高く、次いで「学校の統合を行う (35.0%)」、「他の学区からの通学を認める (27.4%)」となっている。

図表 78 小規模校の対応策



図表 79 小規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

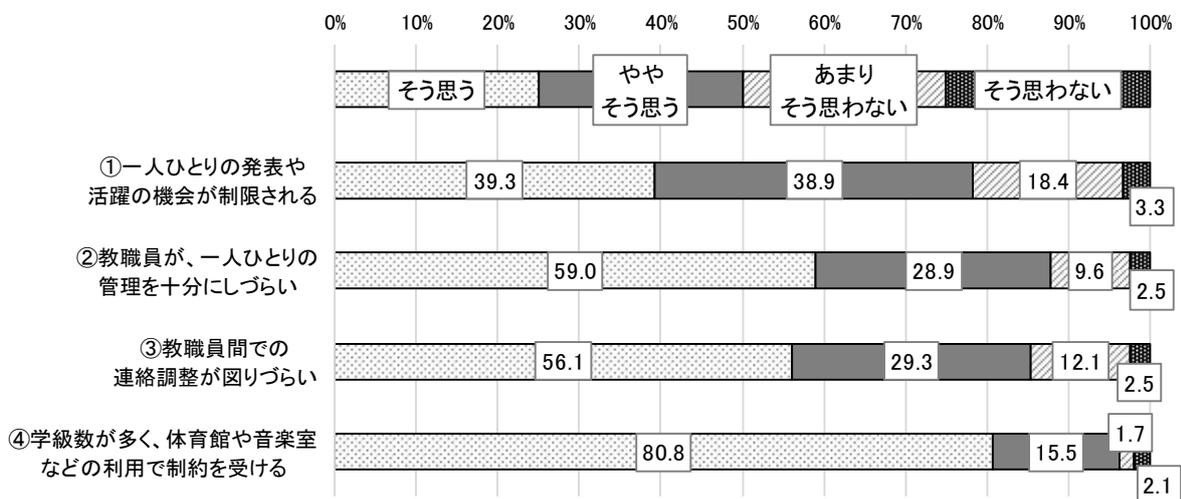
		件数	通学区域の変更 で対応する	学校の統合 を行う	他の学区からの 通学を認める	その他
全体		237	37.6	35.0	27.4	0.0
学校名	大井沢小学校	20	25.0	45.0	30.0	0.0
	大野小学校	12	58.3	25.0	16.7	0.0
	高野小学校	13	69.2	23.1	7.7	0.0
	守谷小学校	30	40.0	36.7	23.3	0.0
	黒内小学校	41	29.3	41.5	29.3	0.0
	御所ヶ丘小学校	19	42.1	42.1	15.8	0.0
	郷州小学校	19	31.6	31.6	36.8	0.0
	松前台小学校	20	40.0	40.0	20.0	0.0
	松ヶ丘小学校	2	0.0	50.0	50.0	0.0
	守谷中学校	7	14.3	42.9	42.9	0.0
	愛宕中学校	15	66.7	13.3	20.0	0.0
	御所ヶ丘中学校	27	29.6	29.6	40.7	0.0
	けやき台中学校	12	25.0	33.3	41.7	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 児童生徒数や学級数が多すぎる「大規模校」のデメリットとして、以下のよう
な点が考えられます。各項目について、あなたの感じ方をお答えください
(SA)

⇒『デメリットだと思う(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)』と回答し
た割合は、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける」が
96.3%で最も高く、次いで「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい
(87.9%)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(85.4%)」、「一人ひとり
の発表や活躍の機会が制限される(78.2%)」の順となっている。

図表 80 大規模校のデメリットについて



大規模校のデメリットを点数化した平均値をみると、「学級数が多く、体育館や音楽室などの利用で制約を受ける」が 3.75 で最も高く、次いで、「教職員が、一人ひとりの管理を十分にしづらい(3.44)」、「教職員間での連絡調整が図りづらい(3.39)」、「一人ひとりの発表や活躍の機会が制限される(3.14)」の順となっている。

図表 81 大規模校のデメリットについて（クロス集計・点数化）

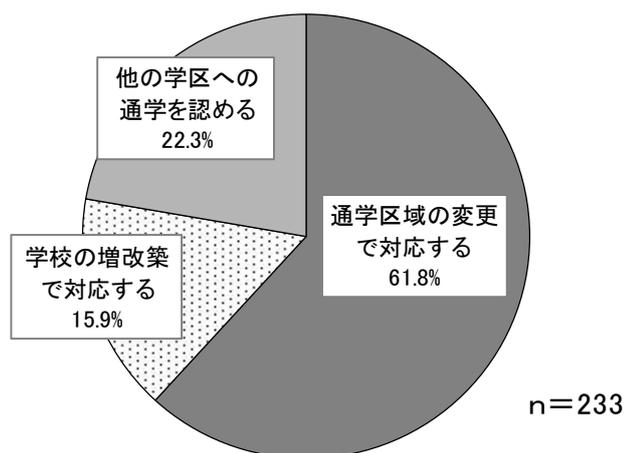
		件数	①一人ひとりの 発表や活躍の機会 が制限される	②教職員が、 一人ひとりの管理 を十分にしづらい	③教職員間での 連絡調整が 図りづらい	④学級数が多く、 体育館や音楽室 などの利用で 制約を受ける
全体		239	3.14	3.44	3.39	3.75
学校名	大井沢小学校	20	3.45	3.50	3.35	3.75
	大野小学校	13	3.31	3.31	3.15	3.77
	高野小学校	13	3.15	3.15	3.38	3.77
	守谷小学校	31	3.19	3.65	3.23	3.71
	黒内小学校	41	3.20	3.49	3.54	3.90
	御所ヶ丘小学校	19	3.53	3.74	3.63	3.79
	郷州小学校	19	3.16	3.32	3.47	3.68
	松前台小学校	20	3.10	3.50	3.30	3.75
	松ヶ丘小学校	2	2.50	3.00	3.00	4.00
	守谷中学校	7	3.14	3.43	3.57	3.43
	愛宕中学校	15	2.67	3.20	3.00	3.33
	御所ヶ丘中学校	27	2.81	3.37	3.52	3.85
	けやき台中学校	12	3.00	3.33	3.42	3.75

※全体に比べ0.1ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 大規模校となった場合、やむを得ず以下のような対応が必要となるケースがあります。この中から、あなたが最も望ましいと考える対応策をお選びください (SA)

⇒「通学区域の変更で対応する」が 61.8%で最も高く、次いで「他の学区への通学を認める (22.3%)」、「学校の増改築で対応する (15.9%)」となっている。

図表 82 大規模校の対応策



図表 83 大規模校の対応策 (クロス集計)

(単位: %)

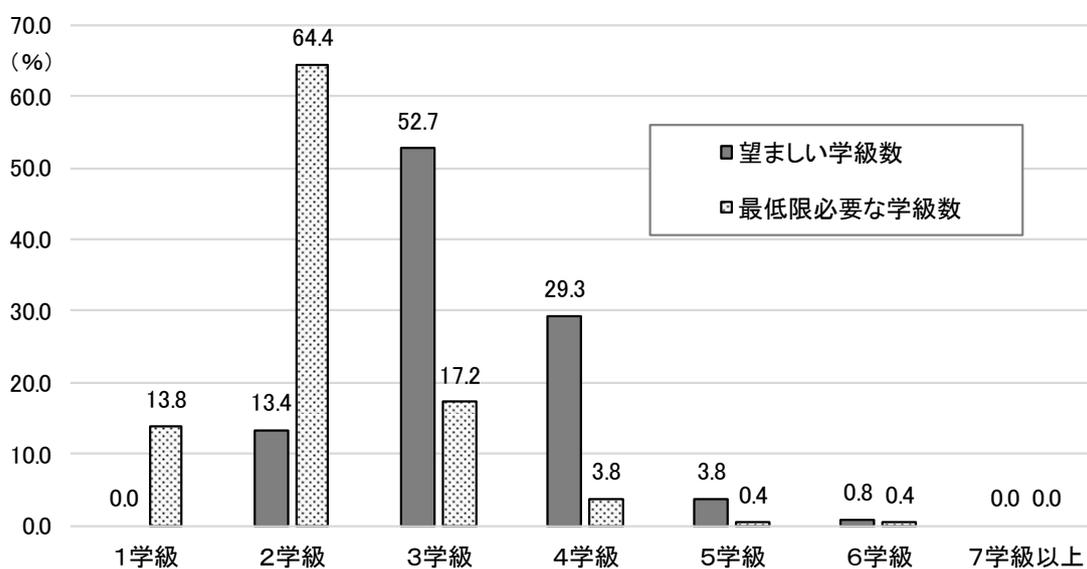
		件数	通学区域の変更 で対応する	学校の増改築 で対応する	他の学区への 通学を認める	その他
全体		233	61.8	15.9	22.3	0.0
学校名	大井沢小学校	19	63.2	10.5	26.3	0.0
	大野小学校	12	66.7	16.7	16.7	0.0
	高野小学校	13	92.3	0.0	7.7	0.0
	守谷小学校	29	65.5	17.2	17.2	0.0
	黒内小学校	41	78.0	4.9	17.1	0.0
	御所ヶ丘小学校	19	31.6	57.9	10.5	0.0
	郷州小学校	19	47.4	31.6	21.1	0.0
	松前台小学校	20	40.0	20.0	40.0	0.0
	松ヶ丘小学校	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	守谷中学校	7	71.4	14.3	14.3	0.0
	愛宕中学校	15	66.7	13.3	20.0	0.0
	御所ヶ丘中学校	25	60.0	4.0	36.0	0.0
	けやき台中学校	12	58.3	8.3	33.3	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 今後、少子化の進行により小規模な学校が増えることが予想されます。そうした状況も踏まえて、あなたが考える1学年当たりの「①望ましい学級数」、
「②最低限必要な学級数」を、以下の選択肢の中からお選びください (SA)

⇒ 「望ましい学級数」では、「3学級 (52.7%)」、「4学級 (29.3%)」が高く、
「最低限必要な学級数」では「2学級 (64.4%)」、「3学級 (17.2%)」が高い。

図表 84 望ましい学級数/最低限必要な学級数

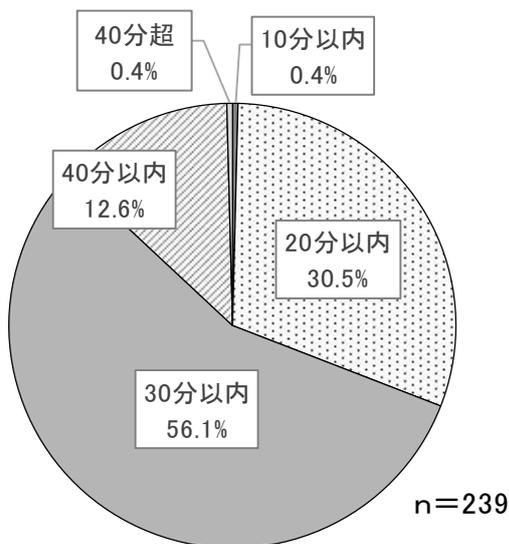


3.学校の「配置」について

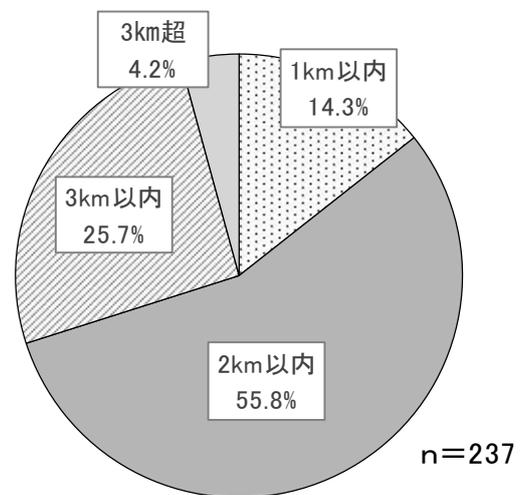
問. 学校によっては学区が広いため、現実的に通学時間・通学距離が長くなるケースも生じています。許容できる通学時間・通学距離は、どのくらいだと考えますか (MA)

⇒「許容できる通学時間」では、「20分以内」までが約3割(30.9%)、「許容できる通学距離」では、「2km以内」までが7割(70.2%)となっている。

図表 85 許容できる通学時間



図表 86 許容できる通学距離



図表 87 許容できる通学時間・距離 (クロス集計)

(単位: %)

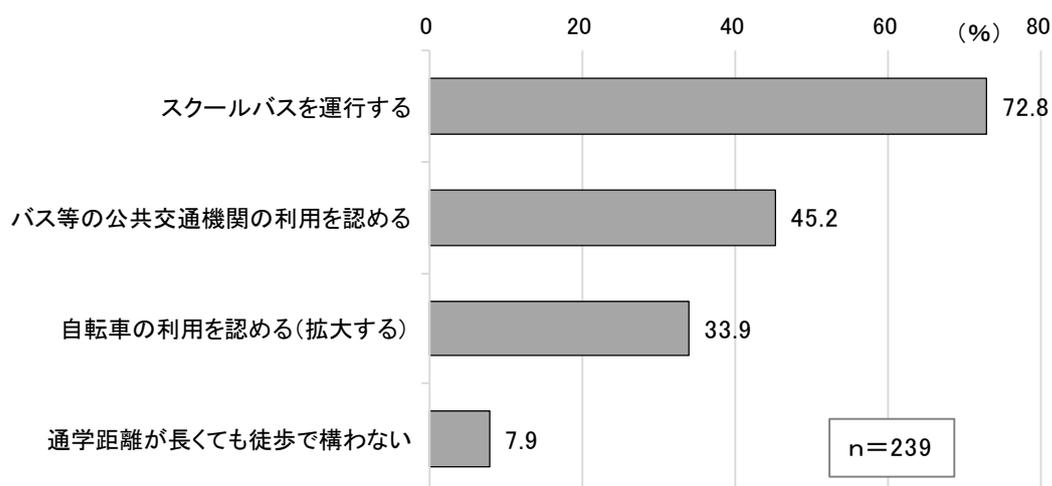
	件数	許容できる通学時間					許容できる通学距離				
		10分以内	20分以内	30分以内	40分以内	それ以上でも可	500m以内	1km以内	2km以内	3km以内	それ以上でも可
全体	-	0.4	30.5	56.1	12.6	0.4	0.0	14.3	55.7	25.7	4.2
学校名											
大井沢小学校	20	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	10.0	65.0	25.0	0.0
大野小学校	13	0.0	23.1	61.5	15.4	0.0	0.0	7.7	69.2	23.1	0.0
高野小学校	13	0.0	15.4	69.2	15.4	0.0	0.0	15.4	61.5	23.1	0.0
守谷小学校	31	0.0	29.0	58.1	12.9	0.0	0.0	22.6	61.3	16.1	0.0
黒内小学校	41	2.4	26.8	58.5	12.2	0.0	0.0	24.4	63.4	12.2	0.0
御所ヶ丘小学校	19	0.0	36.8	52.6	10.5	0.0	0.0	5.6	83.3	11.1	0.0
郷州小学校	19	0.0	21.1	63.2	15.8	0.0	0.0	27.8	33.3	33.3	5.6
松前台小学校	20	0.0	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0	15.0	75.0	10.0	0.0
松ヶ丘小学校	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
守谷中学校	7	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	28.6	28.6
愛宕中学校	15	0.0	20.0	66.7	13.3	0.0	0.0	0.0	33.3	60.0	6.7
御所ヶ丘中学校	27	0.0	44.4	37.0	14.8	3.7	0.0	3.7	37.0	40.7	18.5
けやき台中学校	12	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	58.3	8.3

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 通学距離が長く、許容できる通学時間を超える児童生徒がいる場合、どのような配慮が必要だと考えますか (MA)

⇒「スクールバスを運行する」が72.8%で最も高く、次いで「バス等の公共交通機関の利用を認める(45.2%)」、「自転車の利用を認める[拡大する](33.9%)」となっている。

図表 88 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (MA)



図表 89 通学時間・距離が長い児童生徒への配慮 (クロス集計)

(単位: %)

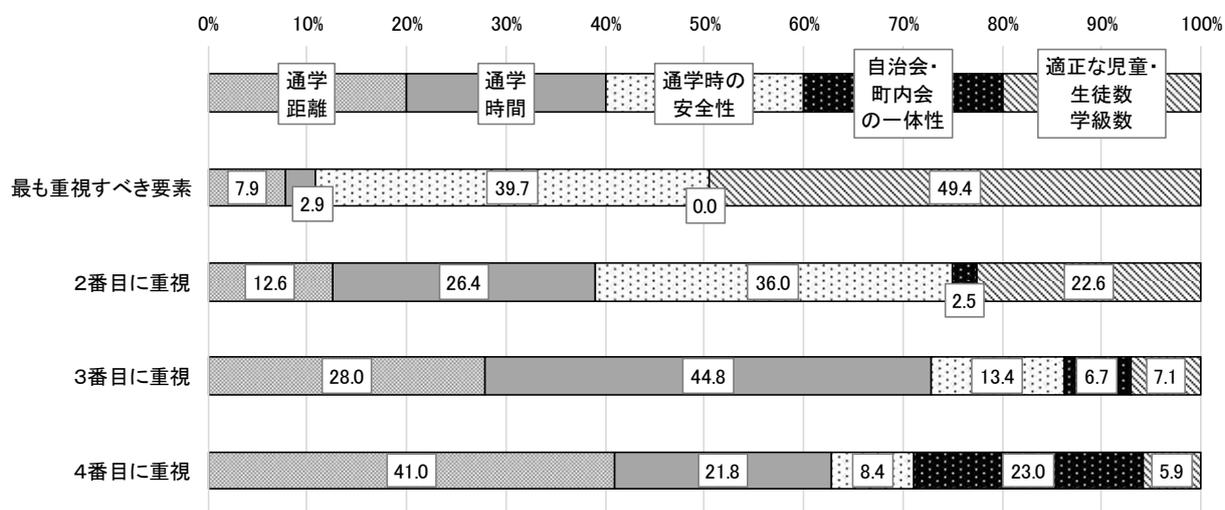
	件数	スクールバスを運行する	バス等の公共交通機関の利用を認める	自転車の利用を認める(拡大する)	通学距離が長くても徒歩で構わない
全体	239	72.8	45.2	33.9	7.9
学校名					
大井沢小学校	20	70.0	80.0	20.0	0.0
大野小学校	13	69.2	53.8	23.1	15.4
高野小学校	13	84.6	38.5	7.7	0.0
守谷小学校	31	71.0	48.4	25.8	3.2
黒内小学校	41	87.8	48.8	9.8	9.8
御所ヶ丘小学校	19	84.2	21.1	5.3	26.3
郷州小学校	19	78.9	57.9	31.6	10.5
松前台小学校	20	80.0	20.0	30.0	10.0
松ヶ丘小学校	2	50.0	50.0	50.0	50.0
守谷中学校	7	57.1	71.4	85.7	0.0
愛宕中学校	15	66.7	53.3	53.3	6.7
御所ヶ丘中学校	27	48.1	37.0	88.9	3.7
けやき台中学校	12	58.3	16.7	75.0	0.0

※全体に比べ5%ポイント以上多い項目を塗りつぶし

問. 学校の適正配置・学区の設定を検討するうえでは「①通学距離」、「②通学時間」、「③通学時の安全性」、「④自治会・町内会の一体性」、「⑤適正な児童・生徒数、学級数」などの要素を考慮していく必要があります。①～⑤のなかで、あなたが最も重視すべきと考える要素、2番目、3番目、4番目に重視すべきと考える要素をお答えください。

⇒最も重視すべき要素では、「適正な児童・生徒数、学級数」が49.4%と最も高く、次いで「通学時の安全性(39.7%)」、「通学距離(7.9%)」の順となっている。

図表 90 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素



学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素を点数化した平均値をみると、「適正な児童・生徒数、学級数」が3.36で最も高く、「通学時の安全」が3.10、「通学時間」が2.11、「通学距離」が1.86、「自治会・町内会の一体性」が1.36となっている。

図表 91 学校の適切配置・学区設定において重視すべき要素（点数化）

通学距離	通学時間	通学時の安全性	自治会・町内会の一体性	適正な児童・生徒数、学級数
1.86	2.11	3.10	1.36	3.36

学校の適正規模・適正配置に
関するアンケート調査報告書

令和5年8月
守谷市